

オセロ おゝ、奇怪千萬！ 奇怪千萬！

イアゴ いや、こりや、あの徒の夢なんです、彼奴の。

オセロ だって、それが経験した事を示しとるから、夢にもせい、嫌疑は十分ぢや。

イアゴ なるほど、薄弱な證據を強める役にや立ちます。

オセロ (憤然として) 女を八裂にしてくれよう。

イアゴ まあ、よく御分別なさいまし。 まだ何も見たんぢやありません

からね、奥さんは貞實かも知れません。……時に、おたづねしますが、奥さんが草苺の刺繍をしたハンケチを持っておいでなざるのを御覽なすつたことがありますか？

オセロ 俺がさういふのを彼女に與つた。 彼女への最初の贈品なんぢや。

イアゴ (意外らしく) 一向存じませんでした、そのハンケチで以て……奥さ

んのに相違ございませんが……今日キャッショールが髭を拭いてゐました。

オセロ え、若しさうならば……

イアゴ さ、若しさうならばです、いや、どのハンケチにしる、奥さんのである以上、他にも證據があるんですから、大ぶ怪しいてことになり

オセロ おゝ、下司奴め命を四萬程も有つてゐをればえゝに！ 一つきりぢや

俺の復讐には足らんわい。……して見ると、事實に相違ない。こら、見い、イアゴ、俺のおろかな戀慕の情は、此通り、天外へ吹き飛ばしてしまふわい。 もう去つてしまつた！……物すごい復讐神よ、地獄の穴の中から起きて来てくれ！ おゝ、戀愛よ、汝の冠冕や心臓の王座は、あの殘虐な憎惡へ引渡してしまへ！ えゝ、

胸よ、腫れあがりをれ、汝は、今、蝮蛇めに刺されとるんぢや！

イアゴ

ま、ま、お氣をお鎮めなさいまし。

オセロ

おゝ、血が見たいわい、血が、血が！

イアゴ

ま、ま、御忍耐なさいまし、其うちにお氣の變ることもございませうから。

オセロ

決して決して（變らぬ）。彼のポンチック海の氷の潮は、其衝き進む勢ひが猛烈で、一度も逆流はせず、プロポンチック海とヘレスポント（の海峡）へ一直線に流れる、血を見ようと望む俺の心も、其通りぢや、一旦かうと思つた以上、もう後ろは見返らんぞ、卑屈な戀愛へ退潮なんかはせん、百川を吸ふ海のやうに、どんぶんに復讐をせない以上。……あの磐石の大空に（と跪いて）誓ひをかけて、こゝにうやくしく誓言をいたしまする。

と祈念し了つて起ち上らうとする。とイアゴがそれを止めて

イアゴ

ま、ま、お起ちなさいますな。（と同じく跪いて）照臨あれ、長永に燃ゆる天の妙光、吾々を圍繞する四大原素、こゝにイアゴが其智慧の、其手の、其心の一切の作用を、恥辱を受けられましたオセロ！將軍の爲に獻じまする！將軍の命とあれば、如何な残酷な行爲でも、私は、それを良心の指揮として奉じまする。

二人ともに起ち上る。

オセロ

其好意を口だけで感謝はせん、かたじけないと思つた證據に、直ぐさま汝にさせることがある、此三日内に、キャッショーめはもう生きとらんと知らせてくれ。

イアゴ

命の通りにいたします、親友はもう死にました。ですが、どうか、

奥さんだけは……

オセロ (奥を見込んで) お、淫婦めが! うぬ、うぬ! …… (イアーゴに) さ、こゝで別々にならう。俺はこれから奥へ往つて、何とか手短に殺す工夫をしよう、あの美しい夜叉めを。……今から汝を副官にするぞ。

イアゴ

ありがたうございます、いつまでも御奉公いたします。

二人ともに入る。

第四場 城の前。

デズデモーナとイミーリヤが道外方をつれて出る。

デズデ

キャッショーさんは何處に下宿してゐなさるか、知つてゐますか?

道外

とんだことを! あの方が何處で虚言なすつたなんて、そんなこと

デズデ

は能申しません。

デズデ

なぜなの?

道外

だつて、キャッショーさまは軍人でございませう。軍人が虚言した

デズデ

なんぞと申さうものなら、すぐズブリツとやられませう。

デズデ

馬鹿が! お宿は何處だと聞いているのだよ。

道外

いや、それを申し上げますのは虚言することになりますんです。

デズデ

まあ、何をいつてるんだよ、たわいもない!

道外

でも、私は、あの方が何處にお泊りですか一向に存じません、それ

デズデ

ですのに、いゝ加減に製造へて、甲處、乙處と申しますのは、大き

デズデ

な虚言でございませうから。

道外

知らない? ぢや、だれかに聞いて來たらよからう。

道外

では、世人と一問答して參りませう。と申すのは、訊問の上で、(解

りましたら御返辭いたすでございませう。

德斯デ 解つたらね、こゝへ来て下さるやうにね。殿さんへはわたしが執成

しておいたから、大抵、首尾よく参りさうですと言つとくれ。

道外 その程度の御用でしたら、多分、人間の智慧で以て出来さうでござ

いますから、早速相試みまするでございませう。

と道外方、例の如く物體ぶつて入る。

德斯デ イミリーヤ、あのハンケチをわたし何處で失くしたんだらうねえ？

イミリ 一向に存じませんよ。

德斯デ ほんとに、金貨の一ぱい入つてゐる財布を失くしたはうが、まだよ

かつたものを。ムーアどのは眞實なお人だから、(世間の) 疑念深い

人達のやうな卑しい心がないからこそよけれ、でなきや、とんでも

ない邪推をなさるかも知れない。

イミリ 疑念深くはあらつしやらないんですか？

德斯デ だれが？ オセローどのがかい？ そんな厭アな毒氣なんか、夫の

生れ故郷の太陽がとうに吸ひ取つてしまつたらうよ。

(人體には四種の液が混合して充溢してゐる、其混合鹽梅

で、性格の良否や健康の度が決せられるといふ古い醫學説に

因んだ語。)

イミリ あれ、殿さまがお見えになりました。

德斯デ 今日は傍を離れますまい、キャッショーさんを呼び返すといはれる

までは。

オセローが出る。

德斯デ 御氣分はいかゞでございます？

オセロ どうといふこともない。(傍をむいて傍白) おゝ、装ふのは苦しい！

……デズデモーナ、あんたは如何なんぢや？

デズデ 無事でございますの。

オセロ 手をお貸し。(とちつとデズデモーナの手を握って)此手は膏ぎつとるなう。だつて、まだ齡も取らず、苦勞なんか知らない手ですもの。

オセロ こりや情が深くつて、氣が大きいといふ證據ぢや。おゝ、温とい温とい、そして膏ぎつとる。あんたの此手は、決して我儘をさせんやうにして、斷食や祈禱や難行、苦行をさせんけりやいかんよ。とか

く、かういふ手にや血氣壯んな悪魔めが宿りをつて、謀叛をする。……いや、こりや善い手ぢや、情けの深い手ぢや。

デズデ さうおつしやつて下すつて當然よ、わたしの心をあんたに獻げつちまつた手ですもの。

オセロ 氣の大きい手ぢや。昔は心が手を興へた、が、近頃の式は只手ぢや、

心ぢやない。

デズデ 何おつしやつてるの、解りませんわ。……さ、あの、お約束した事をね。

オセロ 何ぢやつたかねえ、約束した事とは？

デズデ お目にかゝつて直接にお願いなさいと言うて、今キヤッショーを迎ひにやりました。

オセロ (顔をそむけて) 涙が出をつて目が痛うてならん。ハンケチを貸してくれ。

デズデ はい、こゝにございます。

オセロ いや、予の興つたのを。

デズデ こゝにや持つてませんの。

オセロ え、持つとらん？

デズデ はい、持つてません。

オセロ そりやア不埒ぢや。……あのハンケチは……エジプトの女が予のお

母に與れた大切な物なんぢや。其女は魔法使ひで、大抵の人の心を

見透すことが出来た。其女がお母に言うたには、あのハンケチを

持つとる間は、持主の愛嬌が増すばかりぢやから、夫の愛をほしい

まゝにすることが出来るが、若しあれを失ふか又は他人に遣はすち

ふと、夫は妻を嫌ふやうになつて、心を餘所へ移さうぞと言つた。

お母は其最期に、あれを予に與れて、若しも妻を迎へるやうな場合

となつたら、之を其女に遣れと言つた。で予があんたに遣つた。ぢ

やから、随分とも氣を附けて、其大事な眼のやうにいとしがつたが

えい。あれを失したり、他に遣つたりすりや、又と類のないやうな

破滅となるぞよ。

デズデ まあ、そりや眞實ですか？

オセロ 眞實ぢや。あの織物にや魔力がある。太陽が二百回も地球を周る間

生きて來たちふ魔女がぢや、神通力を得た間に、あの刺繡をばし

たんぢや。あの絹を育てた蠶も神聖なりや、あれを染めた液汁も、

ある祕法家が或少女の心臓の木乃伊から取つたもんぢや。

デズデ まあ、ほんとに！ 全くなんですか？

オセロ 全く事實ぢや。ぢやから、よく注意せんけりやいかん。

デズデ ぢや、あんなもの見なけりやよかつた！

オセロ (颯と氣色を變へて) えッ！ なぜぢや！

デズデ なぜ其様に突ッ慳貪におっしゃるんです？

オセロ 失うたのか？ ならしたのか？ 此ら、行方が分らんやうになつた

か？

デスデ (當惑して) あゝ、如何したらよからう!

オセロ な、何ぢやと?

デスデ いゝえ、なくしはしません、けども、若しあれをなくしたら如何なの?  
の?

オセロ (鋭く) 何ッ!

デスデ (おびえて) いゝえ、なくしやアしません。

オセロ ぢや、取つて来て、見せなさい。

デスデ お見せしませうとも、ですが、今はいけませんの。……あゝ、(解つた) こりや、きつとわたしのお願ひを外すためのよ。……ねえ、

あの、キャッシオーさんを元の通りにして下さいね。

オセロ あのハンケチを取つて来な。……(傍白) いや、疑はしい。

デスデ ねえ、もし、ねえ。……あんな立派な人は又とはありやしませんの

よ。

オセロ ハンケチをッ!

デスデ ねえ、あのキャッシオーさんのことをさ。

オセロ ハンケチをッ!

デスデ 初ツから貴下をば頼みにして立身しようとしてゐる人でせう、貴下と一しよに危ない目にも逢つた人でせう……

オセロ ハンケチをッ!

デスデ ほんとに、あんまりよ、あんたは。

オセロ えい、いッちまへ!

と手荒くデズデモーナを突きつけて、大股に急いで入る。

イミリ (先刻から無言で傍看してゐたが、呆れて) あの方、邪推深くアおあんな  
さららないんですか、あれでも?

デステ

こんなことは初めてなのよ。きっと、あのハンケチに何か不思議なことがあるのかも知れない。あれを失したのは情けないわねえ。

イミリ

一年や二年ぢや男の心は解りませんのよ。男は只もう胃囊なんですよ、さうしてわたしらは只もう食物ですよ。ひもじくなりや、わたしらを食ひます、けども、お腹が満れると、つい吐き出しッちまひますのよ。……あ、キャッシオーさんと我夫が來ました！

キャッシオーとイアーゴーが出る。

イアゴ

外に爲様はない、奥さんに頼むに限るよ。……あゝ、ちようどいや！ さ、うんと頼んで見たまへ。

デステ

おゝ、キャッシオーさん！ 何か變つた事がありました？

キャシ

いえ、例の願ひで參りましたのです。どうかあなた様のお力で更生いたしまして、平素、心から尊敬してをりまする將軍の御恩澤

デステ

にあづかりたいと存じてをるのでございます。いづれとも身の落著きが定めたくてなりません。萬一、私の罪過が非常に重く、過去の功勞を以ても、現在の懺悔を以ても、今後必ず忠勤を勵みますると申し上げても、到底、御機嫌を取戻すことが出來ませんやうでございませれば、せめてもそれを承知するのが御恩惠でございませ。さうなりや據るないと締めまして、處世の方針を改めます、何とかして運命の施與にあづかりますやうに。

まア、ほんとに、お氣の毒なキャッシオーさん！ 執成しちや見ましたんですけれど、今は、あの、どうも調子がわるいんですの。夫がいつものやうぢやないんです。氣分が變つた程に顔が變つてゐたなら、夫とは心附かない程なんですの。ほんとに、神かけて、貴下の爲に出來るだけの力を盡しましたのよ、餘り無遠慮に言つたゝ



めに、不機嫌の的にさへもなりましたの！ ま、暫く御辛抱なさいまし、出来るだけの事はします、自分の爲になら能いしないやうな事をしませう。それで満足して下さい。

イアゴ

え、將軍が腹を立たれましたか？

イミリ

つい今しがたあっちへおいで遊ばしたの、如何にも不安さうな、變なお顔をなすつて。

イアゴ

將軍が腹を立たれた？ こりやア不思議だ。俺は大砲で將軍の旗下の者が空中までも撃ち飛ばされたのを見たことがある。それから、まるで悪魔が荒れるかのやうに、現在の御舍弟をも將軍のすぐ肘のそばから吹き拂つたものだ。(それでも平然としてゐた將軍だのに！)……將軍が腹を立たれるとは？ こりや何か容易ならんことがあるんだらう。……往つてお目にかゝつて來よう。何か仔細がある、腹を立

デステ

たれたとすると。

どうぞさうして下さい。

イアゴ 入る。

きつと、ゼニスから何か政事上の知らせがあつた爲に、でなきや、此サイプラスで最近露顯した或陰謀なんかの爲に煩悶してをられるのでもあらう。さういふ時には目下へ八當りをするのが男の常です、眞實は、オツとく、重大な事を相手にしてゐるんだけれど。きつとさうだらう、ちょうど、指が一本痛むと、それが原で、健全な身體中が痛くなつて來るやうなものよ。いゝえ、男は神さまぢやアない、新婚の當座のやうに毎も深切にして貰へるものと思つてゐると、當が外れる。……イミリーヤ、わたしや濟まないことをしたわね、僻み根性の女武者だもんだから、つい我夫の無情をとやかくと糺問三

味まいしてゐましたが、考かんがへて見みりや、此方こつちが悪わるいのよ、我夫うちのにはどういふ科とがも無なかつたのよ。

イミリ どうか、まア、おっしゃいます通り、お政事向せいじむきの事ことが原もとであればようございませうが、貴女あなたのお身みに掛かつた詰つまらないお疑念うたがひなんかぢやなくつて。

デズデ あゝ、あゝ！ 疑うたがはれるやうな理由りゆうなんかありやしないのに。

イミリ ですが、さうおっしゃつたつて、疑念うたがひ深い人ひと（嫉妬りんぎ深い人）てもものは、聴ききやアしませんのよ。理由りゆうがあつて疑うたぐるのぢやないんです、疑念うたがひ深いから疑うたぐるのです。邪推じやすい（嫉妬）といふ化物ばけものは、つい獨り手ひとに生うまれるもんなんです。

デズデ オセローどのゝ心こころへは、どうぞ、そんな化物ばけものが入はいりませんやうに！  
イミリ アーメン！（どうぞ然しかうしたうございませう。）

デズデ 我夫うちのを捜さがして來こよう。……キャツシオーさん、そこいらを歩あるいていらつしやい。よい機をりさへありや、キツと貴下あなたの願ねがひを持もち出だしませう、さうして、出で來きるだけの事ことはしませう。

キャシ どうも、ありがたうございませう。  
デズデ モーナとイミリーヤは入はいる。  
とビヤンカが出る。  
此女このをんなは此島このしまの賣笑婦ばいせうふで、キャツシオーの馴染なじみである。

ビヤン キャツシオーさま、ごきげんよう！  
キャシ おや、何なんの用ようで此處こゝへ？ ビヤンカさん、あなたも無事ぶじかい？ 實じつは、今いま、あなたの宅うちへ行ゆかうと思おもつたところだ。  
ビヤン わたしやまたあなたのお宿やどへ伺うかがはうとしてゐたんですの。まア、一週間しゅうかんも顔かほを見みせないでさ！ 七日七夜なぬかも！ 百六十八時間ひゃくはちじゅうはちじかんも！

戀しい人の來ないのを待つてゐるのは日時計の百倍にも、二百倍にも  
 當りますのよ！ あゝ、數へくたびれつちまふわよ！  
 キヤン びヤンカ、堪忍してくれ、此間中は、おそろしく氣に掛かること  
 があつたんだよ。が、其中暇を見て、いづれ、此無沙汰の償ひをし  
 よう。

デズデモーナのハンケチを懷中から出して

ビヤン びヤンカさん、此模様を寫してくれないか？  
 あら、キヤンシオーさま、こりや何處から來たの？ 新しい好い人か

らの御進物でせう！ これで、長い間おいでにならなかつた理由が  
 解つた。これほどとは思はなかつた。いゝわ、いゝわ。

キヤン 馬鹿をいふな！ 其様な邪推はどツかの鬼に教はつたんだらう、其  
 鬼の面へ叩き返してやんな。情婦から貰つた記念品だらうと疑ふん

だな？ とんでもないこつた、全く。

ビヤン ぢや、誰れのです？

キヤン 知らん、予の部屋に落ちてあつたんだ。此模様が氣に入つたから、

持主が取りに來ないうちに……きつと取りに來るだらうから……  
 寫しを取っておきたいんだ。持つて取つとくれよ。けふはこれ  
 で別れよう。

ビヤン 別れる！ なぜ？

キヤン こゝで、今、將軍にお目にかゝらうとしてゐるんだ。女を伴れて

ゐるのを見られると困る、信用にかゝはるからね。

ビヤン どうして？

キヤン あんたを嫌ふんぢやないよ。

ビヤン 好かないばかりでせう。ねえ、もう少し家の方へ一しよに來て下さ

いね、それから、今夜早く行くと言って下さい。  
一しよにと言つたつて、もう幾らも行かれやしないよ、こゝに用があ

るんだから。いづれ、又、ぢきに會ふよ。

ビヤン けつこうよ。……ぢや、爲方がないわねえ。

二人ともに入る。

オセロ

### 第四幕

第一場 サイプラス。城の前。

オセロとイアゴーと出る。此以前に、イアゴーは「よ  
しやデズデモーナとキャッシオーとが同衾もしくは接吻した  
事實があつたとしても、單にそれだけで以て不義姦通とは認  
定しがたからう」といふ風の逆説をオセロに向つて試みた  
らしい。それに對してオセロは、「既にそれだけの證據が  
ある以上、姦通と認めないわけにはいかん」と是れはまた至  
極の常識説を主張したらしい。此場のイアゴーの冒頭の  
セリフは、オセロの其語に對しての評と見るべきである。

イアゴ さうお考へですか？

オセロ さうお考へですかとは!

イアゴ え、内々で接吻したとしますと?

オセロ そりや赦すべからざる接吻ぢや。

イアゴ 裸體で一時間と同衾しました以上、たとひ、悪い事はせなかつたと

いたしてもですか?

オセロ (苦々しげに) なに、裸體で同衾して、それで以て、悪い事をした

い? そりや悪魔をも欺かうとする偽善なんぢや。そんなことを

する奴らは、どんなに其志意が正しからうと、忽ち悪魔に誘惑され

る、天の御罰を蒙る。

イアゴ 何もいたさんけりや咎はなからうぢやありませんか? ……ですが、

私が若し妻にハンケチを遣りや…

オセロ したら、如何なんぢや?

イアゴ はて、ヤツちまやア、もう妻の有なんです。妻の有である以上、そ

れを誰れに遣らうと勝手だらうと思ひますね。

オセロ 貞操も妻の有ぢや。それをも他に遣つてえいといふのか?

イアゴ 貞操もものは目に見えないもんでさ。持つてない奴が持つてるこ

とも折々あります。……ですがハンケチは…

オセロ あゝ、その事は忘れッちまつてゐたかつたのに! さうく……あゝ

……憶ひ出した、……あの事が此心の先きへ、疫病の屋脊に大鴉

めが群りをるやうに突き上げて来る。……さうく。彼奴がハン

ケチをば持つとつたと汝が言うたつけな。

イアゴ はい、さう申しました……が、それが如何か致しましたか?

オセロ 汝らしくもないわい。(どうかしたかなぞと問ふのは。)

イアゴ 不埒をしてゐたのを見たて申したからって、何でもないぢやござい

ませんか？ 斯ういふ事を我れから喋説り立てゝゐたと申したからって？ ……そんな奴は世間にふんだんにございませ、押強く出て口説き落したにせよ、婦人の方から戀慕いて据膳をしたにせよ、手に入れた以上、男て奴ア、えて喋々と口外するものでござりますから…

オセロ

彼奴が何か言ひをつたか？

イアゴ

はい、申しました、が、いざとなりや、きつとそんな覺えはないと言ふに相違ございませんや。

オセロ

え、何と言うた！

イアゴ

實は、その、申したんです…え、その…何でしたっけか、

その…

オセロ

何？ 何と言うたんぢや？

イアゴ

臥たと。

オセロ

彼れと一しよにか？

イアゴ

一しよにです…お乗せなすつたと申してもいゝでせう。

オセロ

一しよに！ 乗せたといや、人を欺いたといふ意味にも取れるが…

…一しよに臥る！ ……えい、穢らはしい！ ハンケチ……  
……ハンケチ！ 自白してから、それで以て絞罪にされる。(それが普通の順序だのに) 絞罪にしてから自白させる。お、身が慄へる。何か確實な事を知らせるのでなかつたら、こんな目の眩むやうな激烈な感情が人間の心を搔き亂す筈がない。こんなに身神を惱亂させるものは言語なんかぢやない。ペック！ 鼻と鼻が、耳と耳が、口と口が！ あらうことか！……自白！ ハンケチ！……お、畜生ッ！ (悪魔！)

オセローは苦悶の餘り、遂に悶絶する。

イアゴ

(例の北叟笑み) 利くわ……利くわ、薬が！ かういふ風に馬鹿正直めは直ぐ捉る。さうして多勢の立派な貞女が何の罪もなくッて濕衣を被る。……(キャッシオーの近づくのを見て、急に倒れてゐるオセローの傍に寄つて) もしく、どうなすつたんです？ 閣下々々！ オセローさま！

キャッシオーが出る。

や、キャッシオーどのですか？

キャシ

如何したんです？

イアゴ

將軍が癲癩を起されたんです。これで二度目ですよ、昨日も一度あつたんだ。

キャシ

顛顛を擦つてあげて御覽なさい。

イアゴ

いや、擦らんはうがい。昏睡病てものはそツと此儘にしておかないといけない、でないと、口から泡ア吹いて、亂暴を働くことがある。……あ、動き初められた。あなたは暫く引退つておいでなさい。もう直に回復されるだらう。將軍が去られた後で、あなたに話したい重要な事がある。

キャッシオー入る。

閣下、いかゞです？ 頭に怪我をなさりやしませんでしたか？

オセロ

(例の額の角を連想して) 俺を嘲弄するのにか？

イアゴ

嘲弄！ め、めつさうな。男らしく何事も御運命と御忍耐なさいますやうに！

オセロ

角が生えりや其男は獸物ぢや、化物ぢや。

イアゴ

繁華な都會にや随分多數の獸物だの眞面目くさつた面附な化物だの

が居ります。

オセロ

さういや、彼奴がいよくさう言うたか？

イアゴ

はて、まア、男らしくなさいまし。鞭を掛けられてる髭男（有妻者）は、大抵御同様に車を牽いてゐますよ。こりや我有だと言つてゐながら、其實、共有の臥床に毎晩寝てる者が幾百万人となくございませ。貴下のはまだけつこうです。油斷安心の床ン中で、淫婦の口を舐つて、そいつを貞女だなんぞと思ふのア、それこそ、地獄の呪ひでさ、悪魔の奥の手の嘲弄でさ！ いゝや、私なら知りたと思ひますね、知りや爲様がありますから。

オセロ

おゝ、きさまは分別者ぢや。其通りぢや。

イアゴ

ねえ、暫く立離れて、ぢつと辛抱なすつて隠れておいでなさいまし。先刻、貴下が……御愁歎の餘り、御自分にもお似合ひなさらん御

煩悶の結果……氣絶なさいました其途端に、キャッショームがやつて來ましたんです。で、私は好い加減に取繕ひまして、話したいことがあるから、後に來いといつて立去らせました。つい近くに隠れておいでなすつて、彼奴の目や鼻に現はれる冷笑だの、嘲弄だの、輕蔑だのにお目をお留めなさいまし、私が彼の件を改めて話させませうから、何處で、如何して、何度ほど、何時ごろから憐會したか、又、何時會ふことになつてゐるかつてことを。ようごすか、奴の身振にお目をお留めなさいまし。忍耐しておいでなさらなくちゃいけません。でなきや、男らしくもなく、怒りに心を奪はれたお方だと申さんけりやなりません。

オセロ

やい、イアゴー！ 大丈夫ぢや、上手に耐へて見せる、が……イアゴー！……思ひ切つた慘いことをもするぞよ。



イアゴ けっこう、が、あんまりお急きなすっちゃいけませんよ。 さ、引ッ  
込んでいらっしやいまし。……

オセロー物かげへ入る。

(北叟笑みをして) そこで、キャッシオーにビヤンカめの事を尋ねてく  
れよう。……情けを賣って著たり食ったりしてゐるいたづら女、彼  
奴キャッシオーに首ッただ。多勢を騙して一人に騙されるのが賣  
女の因果だ。……あいつの事を尋ねりや、キャッシオーめ大笑ひをせ  
ないぢやぬまいて。……来た〜。

キャッシオー出る。

奴が笑ふのを聞きやア、オセローめは狂人のやうになるだらう。人  
情に昏いオセローだ、キャッシオーの笑ひや身振や愉快さうな様子  
を見てそれを悉く邪推の種にするに相違ない。……副官、如何な

すったね?

キャシ そんな名で呼ばれると尙ほつらい、其名を失った爲に死にさうにな  
つてゐるんだ。

イアゴ デズデモーナさんにうんと頼み込みや大丈夫だよ。(聲をひそめて)ね  
え、これがあのビヤンカの手で出来ることでありや、すぐにも成功  
するだらうがなア!

キャシ (笑ひ出して) あゝ、ありや惘然な奴さね!

オセロ (物蔭にて傍白) あ、もう笑つとる!

イアゴ あんな情合のある女は見ることが無いよ。

キャシ あゝ、惘然さうな奴ぢや! ほんとに僕に惚れてゐるらしいよ。

オセロ (物蔭にて) 笑ひに紛らして言ひ消さうとしてゐるらしい。

イアゴ ねえ、おい、キャッシオー。

オセロ (物蔭にて) これからあの事を話をさせうとするらしい。さうぢや、

さうぢや、うまい／＼、

イアゴ 是非、夫婦になるんだと言つてたが、さうかい？

キヤシ はゝゝゝゝゝゝ！ (じょうだん言っちゃいけない！)

オセロ (物蔭にて) 勝ち誇つて笑ひをるか、悪黨めが？ 勝ち誇りをるか、

うぬ？

キヤシ 夫婦になる！ え、淫賣なんかと！ 惘然さうに僕アそれほど馬鹿

ぢやアないよ。そんなに見下げまい。 はゝゝゝゝゝゝ！

オセロ (物蔭にて) そゝゝゝゝ。 勝つと笑ふのが定りだ。

イアゴ でも、あんたが彼女と夫婦になることは大評判ですぞ。

キヤシ 頼む、虚言にも程があるよ。

イアゴ これが虚言だつたら、僕ア悪黨なんだ。

オセロ (物蔭にて) 侮辱しをつたんぢやな？ よしッ。

キヤシ そりやあのお猿めが自分で言ひ觸したことなんだよ。自惚心から夫

婦になれるものと自分で定めてゐるんだ、約束なんかしたんぢやな

い。

オセロ (物蔭にて) イアゴが手招きしをる。 いや／＼これからぢやな。

キヤシ つい今も此處へ来たよ、何處へでも尾いて來るんだ。 此間もある

ゼニス人と海岸で話をしていると、そこへ彼の阿呆がやって来て、

ほんのこつた、かう頸ツ玉へかじりついて……

といひつゝ、イアゴの頸を抱擁する。

オセロ (物蔭にて) 「おゝ、かはいゝキヤツシオー」と言うたかのやうな身振

をしをる。

キヤシ ……ぶらさがる、しなだれかゝる、哭きわめく、僕を引ッ張る、引

招り廻す。はゝゝゝゝゝゝ！

といろくくに身振をしつゝ、話す。

オセロ

(物蔭にて) 閨房へ引ッ張り込んだ時の様子を話してをるんぢや。お  
お、うぬ、其鼻を引ッ削いで、犬にでも投げてくれたいんぢやが、犬  
が居らん。

キヤシ

いづれ、女とは手を切らんけりやならん。

イアゴ

ヤッ！ あ、あそこへ奴がやって来たよ。

キヤシ

噂をしてゐた臭猫だ！ が、麝香猫よろしくだね。(香水を芬々と匂  
はせてゐるから。)

ピヤンカが出る。

ピヤン

(突ッ慳食に) 如何しようてんだ、其様に付き纏っちゃ困るぢやないか？  
(同じく腹立たしさうに) 悪魔の母子にでも付き纏はれたがいゝ、あん

たのやうな人は！ 如何しようといふんですよ、先刻お渡しなすつ

たあのハンケチを？ あれを持って歸つたのは宜い阿呆でした。わた

しに此模様を寫せて？ ……なるほど、誰れのだか解らない物で

せうよ、さうしてあんたの部屋に落してありさうな物よ！ 何處か

のお轉婆さんの御進物でせうに、此模様を寫してくれッて？ ……あ

んたのホニホロさん(いたづら女)にやったらいゝでせう。どこで手

に入れなすつたにしろ、わたしや其様なものゝ細工をするのはいや。

と泣いたり、怒ったり。

キヤシ

どうしたのだ、ピヤンカさん、え、どうしたんだよ！ どうしたと

いふんだ？

オセロ

(物蔭にて) や、ありや俺のハンケチに相違ない！

ピヤン

ねえ今晚なら、夕食においでなさい。でなきや、此次ぎこツちでい

いといふ時分に來て貰ふことにしませう。

ピヤンカぶりくして入る。

イアゴ 追ッかけてく。

キヤシ 追ッかけよう、町中を喚き廻るかも知れないから。

イアゴ あそこで夕食をなさるか？

キヤシ その積りです。

イアゴ ぢや、またお逢ひするでせう、是非、お話したいことがありますか  
ら。

キヤシ どうぞおいで下さい。來てくれますか？

イアゴ さ、さ、もう何も言はんで。

キヤッシオー入る。

オセローが物かけから出る。

オセロ イアローゴ、どうして殺してくれようか、あいつを？  
イアゴ 御覽になりましたか、不埒をしてゐながら笑ひ嘲つてをりますの  
を？

オセロ おゝ、イアローゴ！

と苦悶の思入れ。

イアゴ ハンケチをも御覽でしたか？

オセロ ありや俺のか？

イアゴ 大丈夫、貴下のです。奥さんを好い阿呆扱ひにしてゐます！ 奥  
さんがお遣なすつたのを、奴は其馴染の淫賣に遣つたんでさ。

オセロ 九年もかゝつて弄殺にしてくれたい！……佳い女を！ 美しい女  
を！ かはいゝ女を！

イアゴ あゝ、もし、それを忘れておしまひなさらなくっちゃいけませんよ。

オセロ さうぢや、あの女め、腐りをれ、死滅りをれ、今夜のうちに地獄へ  
 落ちをらう、うぬ！ 生かしぢやおかんど。うんにや、此心は石と  
 なつた、叩きや此手に傷が附くぢやらう。……あゝ、此世界中に又と  
 あんな可憐い奴はゐまい、彼女は帝王の傍に臥てゐて、あゝもせ  
 い、かうもせいと命令を下し得るやうな奴ぢや。  
 イアゴ ねえ、もし、それぢや不可せんよ。

オセロ 女め、うぬ！……俺は只有のまゝの事を言うとするんぢや。針爲事  
 も上手ぢやし、音楽だつて、立派にやりをる……おゝ、荒熊をも柔  
 順うさせるやうな聲で歌ひをる。……高尚な、豊かな才があつて、  
 工夫が上手で……

イアゴ ですから一層罪が深いんです。  
 オセロ おゝ、千倍も萬倍もぢや、……さうしてあんな温順い性質！

イアゴ さア、どの男にでも柔順過ぎますんですね。  
 オセロ いかにもさうぢや、其通りぢや。……が、残念ぢやわい、イアゴ  
 ー！ おゝ、イアゴー！ 惘然さうぢやわい、イアゴー！  
 それほど御未練がおあんなさるなら、不埒をしたつていゝてことに  
 なすつたらいゝでせう。貴下さへお介意なさらなきや、誰れにも關  
 係のないこつてす。  
 オセロ 女めを寸々に切り裂いてくれる。姦通をしをるとは！  
 イアゴ 全く穢らはしい御所行です。  
 オセロ 俺の部下の者と！  
 イアゴ いやゝゝ以て穢らはしいんです。  
 オセロ イアゴー、何か毒薬を手に入れてくれ……今夜……詰問なん  
 ぞはすまい、彼女のあの艶麗な容や貌で俺の此決心が鈍ツぢやアな

らんから。今夜ぢやぞ、イアーゴー。

イアゴ 毒薬はお止めなさいまし、床中で絞め殺したはうがようござよ、不義をして汚した其床中で。

オセロ けっこうく。因果應報ぢや、氣に入った。けっこうぢや。

イアゴ それから、キャッシオーですが、あいつは私がやっつけませう。夜中までにや吉左右をお知らせします。

オセロ 非常にけっこうぢや。

奥で喇叭の聲がする。

や、あの喇叭は何ぢや。

イアゴ ゼニスから何か参つたんですよ、きつと。……(一方を見やって)あ、公爵からロドーギーコーさまがお使に見えたんです。あ、奥さんも御一しよです。

ロドーギーコー(ブラバンシヨの近親)を先きにデズデモーナ及び侍者らが出る。

ロドギ 大將どの、御機嫌よろしう!

オセロ ありがたう、あなたにも。

ロドギ ゼニスの公爵並びに元老會からの御書面でございます。

封書をオセローに渡す。

オセロ 謹んで御書面を拜受します。

開封して読みかける。此間に、デズデモーナ、イアーゴー

らが、めいく改めてロドーギーコーに挨拶をする。

デズデ ロドーギーコーさん、何か變つた事でも起りましたんですか?

イアゴ お目にかゝりまして恐悦に存じます。ようこそ此サイプラスへ。

ロドギ ありがたう。副官のキャッシオーどのもお達者ですか?

イアゴ さア、達者でをられます。

デズデ ねえ、夫とあの方の間に情けない仲たがひが起りましたのよ。けれども、あんたが口をきいて下さいましたら、元の鞘に収まりませうと思ひますの。

オセロ (唐突に見返つて) え、うけあへるかい？

デズデ (驚いて) えゝ！

オセロ (そしらぬ振で書面を読む) 「此儀相違なく執行せられたく……」

ロドギ お呼びなすつたんぢやない、御書面を読んでおいでなさんです。

デズデ ……ぢや、將軍とキャッショーとが不和になられたのですか？

オセロ ほんとに情けない仲たがひなんです。どうかして元の通りにしたいと氣を揉んでゐますけれど、キャッショーさんがお氣の毒ですから。

オセロ うぬ、ちツ、畜生めが！

デズデ えツ？

オセロ そんなこと言うてもえいか？

デズデ おや、怒つておいでのやうだわ！

ロドギ あの書面が氣に障つたのでせう、たしかキャッショーを當分代理人にしておいて歸國をしろといふ訓令なんですから。

デズデ まア、ほんとに嬉しいこと。

オセロ ほんとか？

デズデ えツ？

オセロ それほど氣が違つた歟、けつこうぢや。

デズデ えツ、なぜです、オセロードの？……

とデズデモーナが不審がつて傍へ行く。とだしぬけに

オセロ

悪魔め！

といひもあへず打擲する。皆々とりおさへる。

デズデ

こんな目に逢はされる覚えはない。

椅子又は床上に倒れて泣く。

ロドギ

あゝ、將軍、こりやあんまりな爲され方です。手前が目撃したと申したつて、エニスぢや誰れ一人信じ得ますまいぞ。慰めておあげなさい、奥さんは泣いておいでます。

オセロ

おゝ、悪魔めが、悪魔めが！ 若しも此大地が女の涙で子を孕むもんなら、此女が落しをる一滴々々が悉皆クロコダイルにならうわい。……去ッちまへ！

デズデ

ゐると、お腹が立ちますなら、参ります。

デズデモーナ泣くく行きかける。

ロドギ

ほんとに柔順な奥さん。ねえ、將軍、呼び返しておあげなさい。

オセロ

おい、御しんぞさん！

デズデ

えッ？

デズデモーナは戻つて来る。

オセロ

(ロドギーコーに) 何か御用がおりかね？

ロドギ

だれが、手前がですか？

オセロ

(怒りを制しつゝ) さやう。あんたが返らせいと望んだんぢや。反轉

るのは此女の得手なんぢや。何度でもくるくゝと引ッ繰返ります。

それから、泣くことも上手ぢや。幾らでも泣く、それから柔順で

もある、あんたのいふ通り柔順ぢや。非常に柔順ぢや。……(泣き

倒れてゐるデズデモーナに) もつとくゝ涙を出すがい。……(ロド

ギーコーに) さて此書面の儀ぢやが……(デズデモーナに) おゝ、よ



うもそんなこしらへ泣きが出来る！……（又ロドーギーコーに）一旦、歸國せいといふ御命令なんぢや。……（又デズデモーナに）退んなさい、後に呼びにやるまで。……（又ロドーギーコーに）嚴命に従うてデニスへ歸ることになります。……（又デズデモーナに）えい、退れツちふに！

デズデモーナ泣くく入る。

（又ロドーギーコーに）代理はキャッショーにさせます。それから、今夕は、あんたを御招待して、御一しよに晚餐がしたい。ようこそお出で下された此サイプラスへ。……（奥を睨んで）狒々め、山羊め！

ぶつ〜いひながらオセローは入る。

ロドギ

（見送って、呆れて）これがムーアどのか、元老會が擧つて圓滿な人格

者と稱讚されるムーアどのか、怒りのために本性を失ふやうなことの曾てないといふ？ どんな思ひがけん禍ひの彈丸にも、偶然の災厄の投槍にも中りもせず、貫かれもせぬといふ堅徳の人と見えませうか？

イアゴ

大變に變られましたよ。

ロドギ

正氣でせうか？ 氣がどうかしてゐなさんぢやありませんか？

イアゴ

あらつしやる通りです。手前の口からは何とも申しかねます、若しあらつしやるべきやうで若しなかつたらば……どうか、さうあらつしやればいゝがと願つてゐるんでございますんですが！

ロドギ

奥さんを打擲なさるとは！

イアゴ

ありや全くよくないこつてごした。だが、あれッきりで濟みやようござがね？

ロドギ 始終しじゆうあるんですか、あんな事ことが？ あの書中しよちゆうの事ことが氣きに障さはって、けふに限かぎって、あんな不都合ふつがふをせられたのか？

イアゴ あゝ、あゝ！ 見みた事ことも知しってる事ことも手前てまへの口くちからは申まうしかねます。お氣きを附つけて御覽ごらんなさりや、手前てまへが申まうさなくツても、將軍しやうぐん御自身ごじしんの舉動きどうでお解わかりになります。後あとから追ついていらしって、尙ほ様やう子を御覽ごらんなさいまし。

ロドギ 見みちがへてゐたのが殘念ざんねんですわい。  
皆々みなみな入はいる。

第二場 城内じやうないの一室いつしつ。

オセローとイミリーヤと出でる。イミリーヤを特とくに呼よび附つけて糾問きうもんしてゐるのである。

オセロ ぢや、何も見みなんだちふか？

イミリ 聞きいたことございませぬのよ、あやしいと思おもひましたことなんかも。

オセロ が、キャッショーと彼女おれが一しよにをる所ところは見みたんぢやらう？

イミリ はい、ですけど、どういふ不都合ふつがふな事こともありやしませんでしたの、お二人ふたりのお口くちから出でたことは、一言ひとことだつて聞きき洩もらさなかつたんですけれど。

オセロ え、耳みみこすりなんかしやせんかつたか？

イミリ いゝえ、決けつして。

オセロ あんたに其場そのばを外はうさせようとしやせんかつたか？

イミリ いゝえ、決けつして。

オセロ 扇子せんすを取とつて來こいと、手袋てぶくろとか、假面マスクとか、何か物ものを取とりに出だし

やせんかったか？

イミリ いゝえ、決して。

オセロ そりゃ不思議ぢや。

イミリ (手強く) 閣下、奥さまが御貞實なことはわたしが此魂ひを懸けて保証します。さうで無いとおぼしめしていらつしやいますなら其お考へはお棄てなさいましよ、全くのお邪推なんです。若しかどツカの悪い奴が貴下のお頭へそんな事をお入れしましたなら、そんな奴は蛇の呪ひとかいふ天罰にかゝるがいゝ！ほんに、奥さまが御貞實で潔白であらつしやらんやうなら、世間に果報な男なんか一人だつてありやしません、世界一の貞女だつて無類の不義者になるんですもの。

オセロ 彼女を呼んで来てくれ、こゝへ。さ、早く。

イミリーヤ入る。

大ぶ立派に言ひをる。が、あれ程の事は苟くも周旋役をする女なら言ひ得る筈ぢや。あいつは狡慧うて、不義密通の秘密筆筒の錠と鍵ともなる賤女ぢや。でも、跪いて祈禱をしをることがある、俺はそれを見た。

イミリーヤに伴はれてデズデモーナが出る。

デズデ 貴郎、何か御用でございますの？

オセロ どうか此處へ来て下さい。

デズデ どういふ御用？

オセロ 目をお見せなさい。予の面を御覽なさい。

デズデ まあ、何て氣味のわるい事を？

オセロ (イミリーヤに) お内儀さん、例の職務を頼むよ。二人だけ残しとい

て、戸を閉めて下さい。人が来たら咳拂ひをするか、エヘンと言つて下さい。なア、例の内密事を頼む、内密事を。えい、早くせよ。

イミリーヤ呆れて入る。

デズデモーナ 跪いて

デズデ (こはぐ) 膝を突いて申します、なぜ其様なことをおっしゃるんです？ お言葉附きで怒っていらっしゃるのは解ってますけれど、どういふわけなのかは解りません。

オセロ やい、汝は何者ぢや？

デズデ 貴郎の妻です、あなたの貞實な妻です。

オセロ さ、さう誓言してから地獄へ往け。でない、面が天人のやうぢやから、夜叉や悪魔も汝をば能う捉へんかも知れん。ぢやから、一二重

の墮地獄罪を犯しをれ、貞實ぢやなぞと誓言して。

デズデ それは神さまが御存じです。

オセロ 神たちはよく御存じぢや、汝が不信不義を働いとるのを。

デズデ (急に起ち上つて) えッ、不信不義とは？ 誰れに？ 誰れと？ わたしがどんな不信不義を？

オセロ (両手で面を掩つて) あゝ、デズデモトナ！ 去ッちまへ！ イッちまへ！

デズデモーナが立寄るのを手荒く排斥けて男泣きに泣く。

デズデ あゝ、まア、情けない！ なぜお泣きなさるのです？ 其涙はわたしが原因なんですか？ ねえ、今度のお召返しを父が爲た事とでも疑つていらっしゃるのなら、それはわたしの知ったことぢやありませんのよ。(わたしの咎にして下さいますな) 貴郎が父と縁を切るとおつ

オセロ

しやりや、わたしも縁を切つてしまひますわ。  
 もしも天が艱難や辛苦で以て試さうとなされたのならば、あらゆる  
 恥辱や苦痛を此素頭へ注ぎかけ、貧苦の淵に唇 際まで身を浸らせ、  
 我が身をも、わが最上の望みをも奴隷の境涯に墮落させてしまはせ  
 られたのなら……まだしも魂ひの何處かに一滴し程の忍耐が残つ  
 てもをるぢやらうが……あゝ、みじめぢや、いつまでもく世の嘲  
 りの的となつて、指ざされるあさましい身となるとは！ が、それ  
 はまだ堪忍もせう、耐忍もせう、立派に。ぢやけれど俺の心臓を秘  
 藏しておく寶の藏、此命の流れの、湧くのも涸れるのもそれ一つで  
 定る其泉、そこに居りやこそ生きとるが、そこを離れりや死なんけり  
 やならん其源の泉から追ひ出されてしまふとは！ 又は其泉をあ  
 の穢らはしい蝦蟆を交尾ませて孕ませる水溜りにしとかなきやな

らんとは！……おゝ、忍耐よ、お前も顔の色をも變へい、若々し  
 い薔薇のやうな唇をしてゐる天童よ、もう斯うなつたら、鬼のやう  
 な面になりをれ！

デズデ

よもやわたしの貞實を疑つていらつしやるんぢやないでせう？

オセロ

おゝ、貞實ぢや！ 肉店に群つて卵を産る最中にも交尾みをる夏の  
 蠅のやうに貞實ぢや。おゝ、汝は毒草ぢや、色も、香も、美しいわ  
 い、いとらしいわい、目や鼻が痛うなるわ。えい、うぬ、生れて  
 來をらなんだらよかつたものを！

デズデ

まア、情けない、自分では知らない何様な悪い事をしたんでせう！

オセロ

(デズデモーナの顔を見詰めて) えい、此眞白な紙は、此見事な書物は、  
 其上へ「淫賣婦」と書くために製られたんか！ どんな事をした  
 ツ？ どんなわるいことを？ おゝ、うぬ、淫賣めが！ 此頬が鍛

冶場のやうになり、廉恥心が灰になっちまふわい、汝のした事を口へ出さうとすりや。どんな事をしたとツ？ 天もその爲に鼻をおさへ、月も目を塞ぎ、出逢ふ何でもを舐め廻すあの多情な風でさへも洞中に隠れてそれを聞くまいとする程の事なんぢやわ。どんな事をしたと？ ぶろくしい淫賣めが！

デズデ

ほんとに、そりや、あんまりなお言葉です。

オセロ

ぢや、淫賣ではないちふのか？

デズデ

わたしは基督信者です。夫の爲に、假にも此體を道ならぬ物に觸れさせて、汚すまいとしてゐるのが淫賣とやらでないのなら、わたしは決してそんなものぢやありません。

オセロ

ぢや、淫賣ぢやないのか？

デズデ

はい、お救ひを受ける身なんですから。

オセロ

え、きつとさうか？

デズデ

おゝ、神さま、お赦し下さい！

オセロ

ぢや、詢に濟まなんだなう、俺はお前をオセローと結婚しをつた彼の狡猾いゼニスの淫賣めと取違へとつたわい。(奥にむかつて) こちらら、お内儀、ピーター上人とは反對の方角で役をしとるお内儀、おい、地獄の門番さん！

デズデ モーナ耐へかねて椅子の上へ泣き倒れる。

イミリーヤが又出る。

お前、お前、さうぢや、お前さんぢや！ もう吾徒の用事は濟んだ。さ、これがお前さんの骨折料ぢや。どうかよろ錠を下して、内密にしといてくれ。

財布をイミリーヤの前へ抛げ出しておいて入る。

イミリ あら、まア、あの方、何を思つて、あんなことを？……(デズデモ一  
ナを介抱しつゝ)もし、どうなさいました？ え、どうなさいました  
んですよ、奥さま？

デズデ 何だか夢を見てゐるやうなの。

イミリ 奥さま、どうなすつたんですの、殿さまは？

デズデ だれがさ？

イミリ はて、まア、お殿さまがですよ。

デズデ たれなの、お殿さまでの？

イミリ あなたのお殿さまの事でございますの。

デズデ (うっとりとなつて) わたしにや殿さんはありません。何も言つてお  
くれでない。泣くことも出来なけりや返辭をすることも出来ない、  
けども涙より外に出るものはない。……ねえ、願ひです、今夜

はわたしの寢床へ、婚禮の時のあの敷布を掛けておいておくれ。い  
いかい？ それからお前の夫を呼んで来てくれ。  
ほんとに、まア、とんでもないことになつちまつた。

イミリーヤ入る。

デズデ 當然なんだ、こんなにされるのは本當に當然なんだわ。まア、どん  
な事をしたんだらう、些少ばかりの悪いことをさへ、あんなに眞剣  
になつて咎め立てをなさるといふのは？

イミリーヤが夫のイアゴーをつれて出る。

イアゴ 奥さん、何ぞ御用ですか？……どうなすつたんです？

デズデ わたしにや言へない。ちひさい兒を教へるには手柔かにして容易い  
事から始めるのが定りです。叱るにしても、さう爲るのが當然ぢや  
ないの？ ほんとに、わたしや叱られりや、子供なんだもの。

イアゴ 一體、どうしたといふのです？

イミリ ねえ、イアゴーどの、お殿さまは奥さまを淫賣呼ばはりをなすつて、迎も、その、正直な心ちや聴いてゐられないやうな口ぎたないことをおっしゃったんだよ。

デズデ イアゴーどの、わたしがそんな風の女でせうかねえ？

イアゴ どんな風のです？

デズデ 今イミリーヤが夫が言はれたといつてゐたやうな。

イミリ 淫賣だとお言ひなすつたのよ。くらひ酔つた乞食だつて、あんな酷いことは言やしないよ、ほんの當座の女房にだつて。

イアゴ どうしてそんなことをおひなすつたのです？

デズデ 知りません、けれども、わたしや決してそんなもんぢやアない。

イアゴ お泣きなさいますな、お泣きなさいますな。……やれ、！

イミリ 諸處方々からのあんなお立派な御縁談をも、お父さまをも、お國を

も、御親友をも、お棄てなすつたのが、淫賣呼ばはりをされるために？ さう思ふと、どうして泣かないでゐられるものか？

と、イミリーヤ泣く。

デズデ みじめなわたしの運命！

イアゴ 無法千萬な將軍、どうしてそんな氣におんななすつたか？

デズデ さア、神さまは御存じであらうけれど。

イミリ こりや、きつと、斯うだ、もしそれが間違つたらわたしや絞罪にされてもかまはん、或根こそげ悪い奴が、お節介な、取入ることの上手な悪黨めが何かの役目に有り附かうために、讒言したのに相違ないのよ。

イアゴ 馬鹿ッ、そんな奴があるものか、あらう筈がない。



デズデ

若しそんな者がありましたら、天よどうぞお赦し下さいませ。

イミリ

(憤激して) 何の、首縊繩よ、赦して下さいませ！ そんな奴の

骨は、地獄の鬼よ、噛み砕いてくれ！ 淫賣なんぞとお呼びなされる

理由はない！ え、誰れがお相手だよ？ 何處で？ 何時？ 如何

な風に？ 何様な證據があるんだ？ ……きつとく、ムーアさま

はお欺されなすつたんだ、どツかの悪黨めに、どえらい悪黨めに、

怖ろしい悪い奴に。 お、神さま、そんな奴をお見せ下さいまし、

さうしてありつたけの善人の手に笞を持たせて、其悪者めらを眞裸

にして、ぶつてく、ぶちのめして、世界中を追ひ廻して下さいまし、

東の端から西の端まで！

イアゴ

外へ聞える、大きな聲をするな。

イミリ

お、にくいやつら！ ……(イアゴに) あんたの分別を引ッくら

かへして、わたしとムーアさまとが異しいなんてことを思はせたのも、きつとそんな奴に相違ないわよ！

イアゴ

馬鹿ッ、つまらんことをいふな。

デズデ

お、イアゴーどの、夫の機嫌をなほすには如何したらいいんだら

うねえ？ お願ひですから、夫のそこへ往つて来て下さい、此天上

の光明にかけて、如何して機嫌を損じたのやら、わたし夢にも知

らないんだから。 ……かう跪いて(と跪いて) ……萬一わたくし

が夫に背きまして不義を働きますやうなら、胸でなり、行爲でな

り、目でなり、耳でなり、どの感覺なりで、夫以外の人をいとし

と思ふやうな事がありましたら、或ひは今現に、或ひは曾て、或ひ

は未來に於て……たとひ夫がわたくしを乞食のやうに扱つて振棄

て、しまひませうとも……假にも夫をいとしと思ひませんやう

なことがありましたら、あらゆる慰めを此身からお取上げ下されませ！……邪慳じゃけんにされるのは辛い、苦しい、夫をつとに邪慳じゃけんにされれば死ぬかも知れん、けれども、いとしいと思ふ此心このこころは變かはらない。わたしにや「淫賣いんばい」なんてことは言はれない。口くちにするさへ汚けがらはしい。そんなわるい名を附つけられるやうな事が、世界中の榮耀えいようが得られるからッて出来るもんぢやアない。

デズデモーナが取亂とりみだして泣くのをイアーゴーらが慰める。

イアゴ

ま、ま、お氣をお鎮しづめなさいまし。ほんの一時の御機嫌ごきげんですよ。政事上せいじじやうの事が何かお氣に障さはったんで、それで八當りやつあたをなさるのでさ。

デズデ

それッきりならいゝけれどもねえ……

イアゴ

大丈夫だいぢやうぶ、それッきりですよ。

奥おくにて喇叭ラッパの聲こゑ。

おや、ありや夕食ゆふしよくの知らせだ！ ゼニスのお使者ししやたちがお饗應もてなしを待つておいでゝす。さ、さ、奥へ、お泣なきなさいますなよ。今いまにおめでたくなりますよ。

イミーリヤに介抱かいほうされてデズデモーナ入る。

イアーゴーが歸かへりかけると、其途端そのとたんにロダリーゴーが出る。

とイアーゴーは困こまったと思おもひながら、わざと平氣へいきで

どういたしましたね、ロダリーゴー君くん！

君きみの爲ため向けはあんまりだらうぢやないか？

ロダリ

え、あんまりとおいひなさるのは？

イアゴ

イアーゴー、毎日まいにち々々、何とか、かんとか言いひぬけて、僕ぼくの望のぞみを遂とげさせようと骨折ほねをつてくれるよりも、寧むしろ成なるべく其望そのぞみを遂とげ

させまいとしてゐるのだとしか思はれない。もう僕ア忍耐が出来ない、今日までいゝ阿呆にされたのを此儘にや濟さない積りだ。

イアゴ ロダリーゴー君、まア、僕の言ふことを聞きたまへ。

ロダリ いゝや、もう聴き鑿いた、君の口と爲る事とはカッきり別々だ。

イアゴ そりや酷いよ、そんな風にいふのは。

ロダリ 全くの事をいつてるんだ。僕ア有つてたものを皆悉費ツちまった。デ

ズデモーナへ渡すといつて君が持つていっただけの寶石類がありや道

心の堅固な尼だつてもう大概墮ちる頃だ。彼女がそれを受取つて、

喜んですぐにも逢はうといつたやうに君は言つたが、そんな嬉しい

目にやいまだに逢はない。

イアゴ ま、ま、いゝよ、それでいゝんだよ。

ロダリ 何がいゝんだ！ ま、まだ！ まア、まアぢや濟まさないぞ。いゝ

んだよとは何だ！ いゝや、全く卑劣だ、餘りだ。君は僕をペテ  
ンに掛けたんだな。

イアゴ ま、いゝぢやないか、そんなに言はなくツても。

ロダリ いゝや、決していゝことアない。僕は此通りをデズデモーナに逢つ

て言ふんだ、彼女が寶石を返してくれゝば、僕はもう此望みを捨て

て不正な戀をしたのを後悔する積りだけれど、若しあれが戻らんけ

りや辨償は君から貰ふぞ。

イアゴ や、立派にいはれた。

ロダリ 口ばかりぢやアない、キツと其通りにするぞ。

イアゴ はて、それでこそ男性的だ。僕ア君を今までよりもズツと買ひ上げ

て敬意を表するよ。……ロダリーゴー、手を、手を。(と握手して)

君が僕を怨むのは道理だ、無理はない。けれども僕ア此事ぢや、正

直に骨を折つてゐたんだよ。

ロダリ だつて、さうは見えなかつた。

イアゴ 成程、さう見えなかつたらう。君が疑ふのを、だから無理とはいは

ない。だが、ロダリーゴー、若し君に、あの、何があるなら、前と

は違つて、今は有ると思ふんだが、といふのは勇氣だ、其勇氣をだ、

今夜僕に見せてくれたまへ。若し翌の晩にデズデモーナが君の手

に入らなかつたら、人を陥れた罪で僕を此世から叩き出して、命を

取るがいゝ、どんな怖ろしい機械をでも工夫して。

ロダリ で、その、爲事といふのは？ やられさうなことかね？

イアゴ ねえ、ゼニスから特使が来て、キャッシーがオセローの代理にな

ることになった。

ロダリ ほんとにか？ ぢや、オセローも、デズデモーナもゼニスへ歸るこ

とになるんだね。

イアゴ いゝや、いゝや。ムーアはモーリタニヤへ往くんだ、あの美しい

デズデモーナも一しよに、何かこゝに留まらんけりやならんやうな

事が起らん以上は。ところでだ、足をとめるにやキャッシーめを

かたづけるに限る。

ロダリ え、かたづけるてのは？

イアゴ はて、オセローの代理になれんやうにするんさ、奴の脳天を叩きみ

じいてよ。

ロダリ で、それを僕に爲るといふのかい？

イアゴ さうだ、君に自分の利益になることを敢て爲ようといふ勇氣がある

ならだ。奴は今夜淫賣の許で夜食をする、そこへ僕も往く。奴は

まだ自己が榮進したことなんか知らないでゐる。若しあそこから

奴の歸るのを……それア十二時と一時の間といふ事に俺が計らふ  
……見張つてゐりや、ヤツつけるのはお心任せだ。俺も近くにゐて  
助太刀をする、さうして挾討にしつちまはう。さ、さ、そんな變な  
顔をしてゐないで、一しよに來たまへ。奴を殺さんけりやならん理  
由を改めて話さう、成程と君が思ふやうに。もう十分夕食時だ。  
夜がすんく、更ける。さ、さ。

ロダリ

もつとくはしく理由が聴きたい。

イアゴ

聴きや、成程と會得が行くよ。

イアゴはロダリと手を組み合せて、いかにも親友  
らしくして入る。

第三場

城内の他の一室。

オセロー、ロドーギー、デズデモーナ、イミリーヤ及び  
侍者役ら出る。恰も夕食後の體。

ロドギ

どうか最早おかまひ下さいませな。

オセロ

おゝ、歩くのは手前の勝手なのです。(御介意下さるな。)

ロドギ

奥さん、もうお寝みなさい、何かとありがとうございました。

デズデ

ほんとうによろ来て下さいました。

オセロ

さ、参りませう！……(ふと、デズデモーナを見て) おゝ……デズデ

モーナ……

デズデ

何でございますの？

オセロ

あんたはすぐ寝たらよからう。ぢきに戻つて來るから。傍の者は

皆な退がらせなさい。えいかね？

デズデ

かしこまりました。

オセロー、ロドーギーコー及び侍者役ら入る。

イミリ 　　どんなでございますの？ 先刻よりやおやさしうおなりなすつたやうに見えますが。

デステ 　　すぐ戻つて來るとお言ひでした。お前をも退らせて、床へ入つてゐるといふおいひつけなの。

イミリ 　　わたくしを退らせろつて！

デステ 　　あゝ、さういふお吩咐なの。ですから、イミリーヤ、わたしの寢衣を持って來といつてから退つてお休み。お氣に逆らはないやうにせにやならない。

イミリ 　　ほんとにあんな方にお逢ひなさらなけりやよろしかつたんですのねえ……

デステ 　　わたしやさう思はないの。いとしいと思つてゐますから、無情くさ

れても、叱られても、怖い顔をされても……針を外しとくれ……みんななつかしいやうに見えるのよ。

イミリ 　　おっしゃりつけの、あの敷布はお床の上へ掛けておきましたよ。どうでもいゝの。……ほんとに人間は何て馬鹿らしいものだらう

デステ 　　ねえ！ 若しわたしがお前よりも先き死んだら、ねえ、どうぞ其敷布で以て包んどくれね。

イミリ 　　あれ、ま、馬鹿なことをおっしゃい！

デステ 　　（夢を見てゐるやうな思入れで）わたしのお母さまの小間使ひにバーバラといふのがゐたつげが、色男があつたの。ところが、其男が氣が狂つて、バーバラをば捨てつちまつたの。彼女が常住口癖にしてゐた柳の唄、それは古い唄なんだが、彼女の身の果を詠んだのかと思ふやうな唄なの。さうして彼女は其唄を唱ひながら死んじまつたの

よ。今夜はあの唄がわたしの心を離れさうにない。きっと、かたかたへ首をうなだれて、死んだバーバラのやうに、あの唄を唱はな  
いぢやゐられまいだらうと思ふわ。……さ、はやくしとくれ。

イミリ

夜のお召物を取つて参りませうか？

デステ

いゝえ、此針を外しとくれ。……あのロドーギーコーさんは立派  
な人だねえ。

イミリ

ほんとに好男子でいらっしやいますのよ。

デステ

辯舌もいゝしね。

イミリ

ゼニスのある御婦人は、彼の方のお唇に觸れることが出来るなら、  
パレスタインへまでも跣足参詣をしようとおっしゃつてとございまし  
たの。

デステ

(歌ふ)

あはれ娘はシャモーアの蔭に、

歌へ、柳を、只青柳を！

胸にや手をあて、膝には頭、

歌へ柳を、柳や柳！

傍の小川も共音に鳴いて、

歌へ柳を、柳や柳！

落す涙にや石さへ和む、

上被を脱ぎつゝ。

これを悉皆そつちへ……(と又歌ふ)

歌へ柳を、柳や柳！

さ、早くよ、もうぢきにお見えになるだらうから……

と又歌ふ。

歌へ、青柳や、此身の挿し、

主にや咎ない、身をこそ怨め、……

いゝえ、さうぢやなかつた。……おや！ だれやら戸を叩いてるぢやないの？

イミリ、  
風でございますよ。

デスデ  
(又歌ふ)

主を浮氣と譴めたりや主が、

歌へ柳を、柳や柳！

餘所の女子 慇懃したら

餘所の男と寝やれと被言る。

さ、さ、お退り。 さよなら。……あゝ、目が痒い。 泣く前兆か知らん？

イミリ  
いゝえ、何でもありやしませんのよ。

デスデ  
でもさう言ふぢやないの。……あゝ、男てものは、男てものは！

ねえ、お前、ほんとに如何思つて？……ねえ、イミリーヤ、……世の中にあんなあさましい事をして夫に恥をかゝせるやうな女があるでせうか？

イミリ  
ありや、ありませうとも、随分。

デスデ  
全世界を貰つたつて、お前は其様なこと爲やアしまい？

イミリ  
だつて、あなたはなさりませんお積り？

デスデ  
(窓外の月を仰ぎつゝ) 何の、あの天のお光りにお誓ひして、決して。

イミリ  
わたくしだつてもね、あのお光りの前ぢやア……でも、暗いところ  
でなら、随分。

デスデ  
ま、全世界を懸けて、お前は其様なことをする氣なの？



イミリ 世界と言やア大きな物ですよ、少とばかり悪い事で、それが貰はれますればねえ。

デスデ いゝえ、いゝえ、お前がまさかそんな事を！

イミリ いゝえ、致しますでせうよ。爲っちゃまってから取消しさへすりやよろございますもの。勿論、わたくしだって、合せ指輪のたつた一つや薄絹の三四尺や上被や女袴や帽子ぐらゐの些屑物と取換ッこぢや致しやしません。ですが、全世界といふんでせう、誰れだって間男ぐらゐはしませう、……亭主を王さまにすることが出来りやア。その爲になら煉獄とやらへ入れられてもかまやアしません。

デスデ いゝえ、わたくしはいっそ死んじまったほうがいゝ、全世界を貰へばからって、假にも其様な事をするやうなら。

イミリ だって、悪いのは、つい、此世界だけでのこッてせう、それなりや、

その報酬に此世界が貴女のお手の有になりや、御自分の世界内の悪い事なんですから、御自分で如何にでもならうぢやありませんか？  
 そんな女があらうとはわたしは思はない。

デスデ ありますとも、一ダースほど。どころぢやありません、それが生

イミリ ありますとも、一ダースほど。どころぢやありません、それが生んだ兒で其賭物の世界が一ぱいになる程もありますよ。ですが女房がわるいことをするのは、つまり亭主がわるいからです。当然、せんけりやならん事をしませんで、餘所の前垂へお寶を注ぎ込んだり、勝手な邪推や嫉妬をして罵きたてたり、わたしたちに窮屈な思ひをさせたり、撲打擲をしたり、意地わるく小使錢を減したり何かするからです。はて、わたしたちの胸にだつて癩の蟲もゐます、柔らしいのが持前ですけれど、返報をしようて意地もありません。女房だつて同じ感覺を有つてゐるんだてことを宿六共が知る

がい、んです。女房だつて見もすりや、鼻ぎもすりや、甘い、酸い  
 を食べわける舌を有つてまさアね。なぜ男はわたしたちを他の女に  
 見かへるんでせう？ 慰樂か？ まア、さうでせう。好いた、惚れ  
 たが原なのか？ さういふこともありませう。ふとした癡情から  
 か？ さういふこともありませう。はて、わたしたちだつて、好  
 きもする、惚れもする、慰樂もしたいと思ふ、ふとした癡情も時々  
 は起らうぢやありませんか？ ぢや些とわたしたちを大事にするがい  
 いんです、でないと、女が悪い事をするのは、男が悪い事をして見  
 せたからだと思ひ知らせてやります。

お寢み、お寢み。神さま、たとひ悪い事を見聞きしましても、其  
 悪い事を見習はず、それで却つて身の足らはぬのを矯すやうな習慣  
 をお授け下さいませ。

デスデ

二人ともに入る。

第五幕

第一場 サイプラス。街上。

イアーゴーとロダリーゴーが出る。暗夜の體。町家の軒下。二人はこゝでキャッシオーを暗撃にすべく待伏せをしようとしてゐるのである。

イアゴ

ねえ、此店臺の蔭に立ってゐたまへ、もう直ぐに来るだらう。細刃の鞘を拂つといて、しつかりやつけたまへ。早く〜。びく〜するにや及ばんよ、俺が直ぐ脇にゐるから。望みが成るか成らんかは、これで定るんだ、それを思つてしつかり腹を据ゑたり。

ロダリ

直ぐ傍に居てくれたまへ、やりぞこなふかも知れんから。うん、直ぐこゝにゐるよ。度胸を据ゑて、足場を定めたり。

イアゴ

イアーゴーは少し立離れる。

ロダリ

(獨白) こんな事ア餘りしたかアないけれども、彼男の言ふことも聽いて見りや、如何にも道理だ。たかゞ人が一人ゐなくなるまでだ。(と抜劍して) 斯う劍を抜いた以上、もう奴の命はない。

軒下に忍ぶ。

イアゴ

(獨白) あの腫物(野郎)を痛がるほど摩りこくつたら、大ぶ氣を持つて熱くなりやアがつた。ところでだ、奴がキャッシオーを殺さうと、キャッシオーが奴を殺さうと、互ひに殺しあはうと、どのみち俺にや得だ。ロダリーゴーが生きてゐりや、デズデモーナへ遣ると言つて奴から騙取したあの金や寶石を皆な償へと言やアがるが……勿論、そんなことア出来ない。……キャッシオーめが生き残りや、奴が端嚴なので俺の爲る事は何もかも醜く見える。のみならず、ムーアめが

俺おれの言いったことを奴やつに打明ぶちまけッちまふまいものでもなし……とする  
と迎むかへも危険けんけんだ。さうだ、彼奴あいつア生いしちやおかれな。……ヤッつけ  
よう。……や、來きたやうだ。

キヤツシオーが町傳まちづたひに出でる。

ロダリ 歩あるきつきに覺おぼえがある、奴やつだ。……(急に前へ躍り出て)うぬ、命いのちは  
貫もらった！

とキヤツシオーを一突き突つく。

キヤシ 其その一突ひとつきで、あぶなく命いのちを失うしなところだった、著き込こみ  
たら。汝きさまのを試ためしてくれよう。

劍けんを抜ぬいて、二三合がふしてロダリーゴーを突つく。とロダリー

ゴーは重傷おもを負おつて倒たふれる。

ロダリ おゝ、やられた！

此時このときイアーゴーは闇やみを幸さいひに、そつと背後うしろからキヤツシオーの  
脚あしを一薙ひとなぎしておいて、逃にげて入はいる。

キヤシ 一しやう生かた不具者はものとなつてしまった。……おい、助たすけてくれい！ 人ひと  
殺ころしだ！ 人殺ひところしだ！

キヤツシオー倒たふれる。

オセローが出でる。

オセロ (傍白) キヤツシオーの聲こゑぢや、イアーゴーが約やくを遂とげたな。

ロダリ (倒れたまゝで、苦しげに) おゝ、おれア悪黨あくたうだ、悪わるい事ことをした！

オセロ (傍白) たしかにさうぢや。

キヤシ あゝ、助たすけてくれ、おい、把火あかりを！ 外科醫者げくわいしやを！

オセロ (傍白) 奴やつぢや。……おゝ、勇ゆう敢かんな、正義せいぎなイアーゴー、それほどま  
でに俺おれの恥辱はぢを思おもうてくれるか！ 教をしへを受うけたぞ。……あばず

れ女め、情夫めはもう死んだぞ、汝の非運ももうすぐぢや、淫賣め、待ってをれ。汝の目の妖術も俺の心から消えッちまうた。邪淫で汚しをつた汝の寢床を邪淫の血で染めてくれよう。

オセロー入る。

ロドーギーコーとグラシヤーノーが出る。

キヤシ おい／＼！ 夜番の者はゐないのか？ 通行人はないのか？ 人殺

しだ！ 人殺しだ！

グラシ 何か變事があったらしい。けた／＼ましい叫び聲が聞えます。

キヤシ おゝ、助けてくれ！ おゝ！

ロドギ おや！

ロダリ おゝ、あさましい／＼（おれア悪黨だ）！

ロドギ 二三人の唸き聲が聞える。物すごい晩です。おびきよせてどうか

しようとするのかも知れません、もつと人が来てからにしませう、けんのんですから。

ロダリ だれも来てくれないのか？ ぢや、俺は血がとまらないから、死ん

ぢまはア。

ロドギ おや！

此時、イアーゴー把火を持ち、拔劍を提げて出る。

グラシ あそこへ下著一枚ツきりて把火と武器を持った者が來ました。

イアゴ 誰れだ、そこにゐるのは？ 人殺しだ／＼と呼んでるのは誰れだ？

ロドギ わたしたちは知らん。

イアゴ 呼ばってるのを聞きなさらなかったんですか？

キヤシ こゝです／＼！ どうぞ助けて下さい！

イアゴ おやッ、どうしたんだ？

グラシ ありやたしかオセローどの、旗手ですよ。

ロドギ いかさま。あの勇敢な男。

イアゴ (把火をかざしつゝ) 情けない聲で呼ばつてゐるのは誰れだい？

キャシ イアゴーゴか？ おゝ、僕ア手を負つた、悪黨共にやられた！ 頼む、

どうかしてくれ。

イアゴ やれ、副官どのですか！ どうした悪黨めがそんなことをしや

アがつたか？

キャシ 一人は、多分、其邊にゐるだらう、逃げ得なかつた筈だ。

イアゴ おゝ、卑怯な奴らめ…… (ロドギーコーとグラシヤーノーに) そこ

にゐなざるのはどなたです？ こゝへ来て手助けをして下さい。

ロダリ おゝ、助けてくれ！ おゝ！

キャシ あれだ、其一人は。

イアゴ おゝ、うぬ、人殺しめが！ おゝ、悪黨ッ！

走りよつてロダリーゴの胸を刺す。

ロダリ おゝ、極悪人のイアゴーゴめ！ おゝ、うぬ、犬畜生め！

といひ、落命する。

イアゴ 人を暗撃にしやアがるとは！ ……どこへ行きやアがつたか其兇賊ど

もは？ どうして斯う鎮り返つてゐるんだ市は？ ……おい、人殺しだ！

人殺しだ！ …… (ロドギーコーらに) 君たちは誰れだ？

敵なのか、身方なのか？

ロドギ とくと見た上で評をなさい。

(把火で透して見て) ロドギーコーさまですか？

ロドギ さやう。

イアゴ こりや、どうも、失禮いたしました。キャッショーが悪黨の爲にや

られましたんです。

グラフィン キャットショーが？

イアゴ 兄貴、どんなだね？

キャシ 脚を真二つにやられた。

イアゴ やれ、まア、とんだこった。……諸君、把火を願ひます。俺の下著で其傷を縛らう。

此時ビヤンカが出る。

ビヤン どうしたんですの。大きな聲をなすつたのは誰れなの？

イアゴ (皮肉な口吻で) 大きな聲をなすつたのは誰れだッて！

此うち、ビヤンカはキャットショーに目を附けて走り寄つて、跪き、介抱しつゝ

ビヤン おゝ、まア、いとしいキャットショーさん！ 大事のく、キャットショーさ

ん！ おゝ、キャットショー、キャットショー、キャットショー！

イアゴ おゝ、おのれ、札付きの淫賣めが！……キャットショーどの、あんたに手を負はせた奴に幾らか心當りがありますか？

キャシ 何もない。

グラフィン どうも實にお氣の毒なことだ、わたしは今貴君をたづねて居たところなのでした。

イアゴ 脚絆の紐をお貸し下さい。そ、そ。おゝ、椅子輿がほしいなア、らくに擔いで往かせるために。

ビヤン あゝ、どうしよう、今にも息が切れさうな！ おゝ、キャットショーさん、キャットショーさん！

イアゴ 諸君、手前はあの賣女が此悪事の同類ぢやアないかと疑ひます。……キャットショーどの、まア、暫く引ッ耐へておいでなさい。おいお

い、把火を貸して下さい。……(ロダリーゴの死骸の傍に立寄って)知  
つてる顔なのか、さうぢやないのか? ……あゝ、こりや僕の友人だ、  
同国人のロダリーゴだ! でないのかな? ……いや、たしかに  
さうだ。……やれ、やれ! ロダリーゴだ。

グラシ え、あのゼニスのか?

イアゴ 全く奴でございます。お知合でございましたか?

グラシ 知合! 如何にも。

イアゴ (はじめて心附いたらしく) グラシヤーノさまでしたか? これは、  
どうも失禮いたしました。こんな變事の際ですから、つい、お見  
それ申しました。相済みません。

グラシ いや、お目にかゝって悦ばしい。

イアゴ どうだね、キャッシオー? ……おゝ、椅子輿を、椅子輿を。

グラシ ロダリーゴであるとは!

イアゴ 奴です、全く奴なんです。

此うち、従者らが椅子輿を持って来る。

けっこうく、其輿をこゝに誰れか、注意をして、これで擔いで行っ  
てください、僕ア將軍の侍醫を呼んで来ようから。……(ビヤシカに)  
おい、姉さん、そんな骨折は止めるがよからう。……キャッシオ  
ーどの、こゝに殺されてる男は、僕の親友だったんだよ、こいつが  
あなたに如何いふ遺恨を持ってゐたんです?  
遺恨のあらう筈はない、逢つたこともない男だ。

キャシ (ビヤシカに) おや、蒼白な顔をしてゐるね? ……おゝ、あっちへ  
擔いで行って下さい。

キャッシオーもロダリーゴも擔ぎ去られる。



諸君、まア、暫くお待ち下さい。……(ビャンカに) 蒼白な顔をして  
 ゐるね！……(グラシャーノーらに) あの女の目附の凄さを御覽な  
 さいまし。……(ビャンカに) いや、そんなに目を据ゑたつて、今に  
 もつと言はせて見せるから、さう思ふがいゝ。……(グラシャーノ  
 ーらに) どうか、あれを御覽なさいまし。よくお目をおとめなさいま  
 し。諸君、如何です？ いや、悪い事は自然に物を言ひますよ、舌  
 は使はなくつても。

イミリーヤが出る。

イミリー  
 あれ、まア、どうしたんです？ あんた、何事が起つたんですの？  
 イアゴ  
 キャッシオーどのが、こゝで、ロダリーゴーと逃げてつた奴らとに暗  
 撃にされなすつたんだ。すんでに殺されなさる所だつた。ロダリー  
 ゴーは死んじまつた。

イミリー  
 あれ、まア、あのお方が！ あの、キャッシオーさまが！  
 イアゴ  
 こりや、淫賣買の應報なんだ。イミリーヤ、頼む、今夜夜食を何處  
 でしなすつたか、キャッシオーどのに聽いて来てくれ。……(ビャン  
 カに) おや、今いったことを聽くと、慄へるね？  
 ビャン  
 あの方、夜食は、わたしん許でなすつたのよ、けども、それで慄へて  
 るのぢやないわよ。  
 イアゴ  
 おゝ、おぬしの許で？ ぢや、引ッ立てる、一しよに來い。  
 イミリー  
 (ビャンカを見て) お、けがらほしい、淫賣めが〜！  
 ビャン  
 わたしや淫賣ぢやないわよ、そんな悪口をおっしゃるあんたとどう變  
 ったこともない眞人間の女なんです。  
 イミリー  
 わたしとかはつたところがない！ おゝ、穢らはしい〜！  
 イアゴ  
 諸君、あっちへ參つてキャッシオーどのゝ様子を見ませう。……(ビ

ヤンカに) 姉さん、まだおぬしに聴きたいことがある、一しよに來な。  
……イミリーヤ、急いで砦へ往つて此事を殿さんと奥さんにお知らせしてくれ。……(グラシャーノーらに) どうぞお先きへ。……(傍白)  
事が成るか成らないかの界は今夜だ。

皆々入る。

第二場 城内の寢室。

デズデモーナが床の上に眠つてゐる。その傍に燭火。 オセ  
ローが忍び足で出る。

オセロ

(情けなげに) これが爲なんぢや、これが爲なんぢや、全く。……あ  
あ、清らかな星たちよ、どうか、口に出させないでくれ! ……こ  
れが爲なんぢや全く。でも、彼女の血は流すまい。雪よりも白い、

雪花石よりも滑ツこい彼女の皮膚にや傷はつけまい。でも、生しちや  
アおかれん、生かしておきや、此上又、何度も男をおとしいれをるぢ  
やらうから。燭火を消して、それから、此燭火を消すんぢや。やい、  
燃えとる燭火の奴め、汝は消したつても、又、元通りにすることが  
出来る、あゝ、惜いことをしたと思や。けれども(とデズデモーナ  
の寝顔をしげくと見詰めて) 汝の燭火は、巧妙至極に造られた、自  
然の傑作である此燭火は、一度消してしまふたりや、又と其光明を  
燃え立たせるプロミシユースの火なんかはどこにもないんぢや!  
一度摘んでしまふたら、此薔薇は又とは咲かせることが出来るのぢ  
や。必ず萎れツちまふ。枝に在るうちに香氣を嗅いでおかう。

とデズデモーナを接吻して。

あゝ、かうばしい息ぢや、正義の神だつてもこれを嗅いだなら其劍

を折りかねまいわい！ もう一度、もう一度。……死んでも此通りでゐてくれい、殺してからも可愛がりたい。（又接吻して）もう一度、これが最後ぢや。あゝ、こんなに甘うてく、而も此様なに毒のある奴が又とあつたらうか？ ……泣かずにやをられん。が、此涙は残酷な涙ぢや、いや、此涙は神聖なんぢや、かはゆいから罰するんぢや。……や、目を覺すわ。

デステ だアれ？ ……オセローどのですか？

オセロ うん、おれぢや。

デステ まだお寝らないんですか？

オセロ デステモーナ、今夜の祈禱は済んだか？

デステ はい、すましました。

オセロ 天のお慈悲をまだ能う願うてをらん犯罪があるなら、今のうちに、

急いで願ふがえい。

デステ あら、まア、なぜ？ なぜそんなことをおっしゃるの？

オセロ さ、早うせい。俺はそこいらを歩いとるから。覺悟の出来とらん

者を殺したくない。いや、決して！ 靈魂を殺したくはない。

デステ え、殺すとおっしゃるの？

オセロ うん、殺すんぢや。

デステ ぢや、神さま、どうぞわたくしをばお救し下さいませ。

オセロ アーメン！ 手前も心からお祈りします。

デステ さうおっしゃるやうぢや、よも殺すお積りぢやないでせう。

オセロ ふむ！

デステ でもわたし怖いわ！ そんな風に目をぎよろつかしていらつしやる時は、何か怖ろしいことをなさる時ですから。怖いが自分には解ら

ない、悪い事をした覚えなんかないんだから。でもわたし何だか怖いわ。

オセロ

犯した罪を考へるがえい。

デズデ

貴郎をいとしいと思ふ以外にどういふ罪をも犯しぢやゐません。

オセロ

さうぢや、その爲に殺すんぢや。

デズデ

そりや非道です、いとしいと思つてゐるから殺すとおつしやるのは。

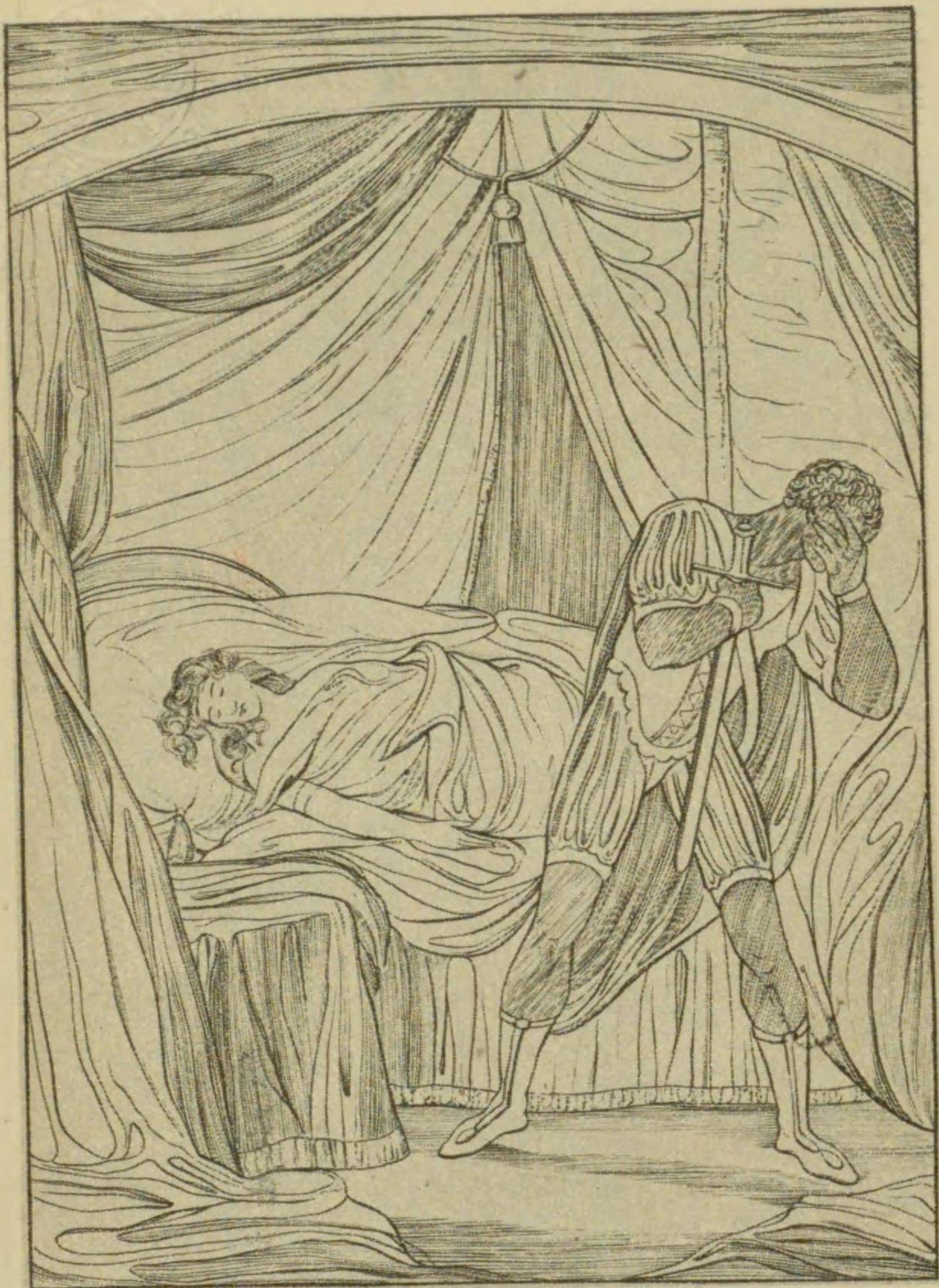
あゝ、ま、なぜ其様に下唇をお噛みになるんですの？ 何か残酷な事を思つていらつしやるの、總身を顛はせておいでになるのは、それがその前表なんですか？ でも、よもや、わたしを殺すんぢやないでせう。

オセロ

しッ、しづかにせい！

デズデ

はい。(しづかにします) どうしたんでございますの！



オセロー、デズデモーナ。

オセロ 俺おれの大事だいじの、あの、お前まへに遣やつたハンケチを、あれをキャッシーに遣やつたらう？

デズデ いゝえゝ、決して遣やりやしません！ 呼よびにやって、あの人ひとに訊きいて下さい。

オセロ 氣きをお附つけなさい、死際しきはの寢床ねどこにゐるんぢや。偽いつはりの誓言せいごんなんかしなさるな。

デズデ はい。だってまだわたし死しにやしません。

オセロ いゝや、もう直すぐに死しぬんぢや。ぢやから有あり體ていに罪惡つみを自白じはくせい、たとひ一ひとつゝ誓言せいごんをして否認ひにんしても、唸うめき苦くるしんでゐる俺おれの此信このしん念ねんを除のぞくことも鎮しづめることも出で來きやせんわい。もう汝きさまの命いのちは無ない。

デズデ ぢや、神かみさま、どうぞわたしをばお助たすけ下くださいませ！

オセロ アーメン！ 手前てまへもお祈いのりします。

デスデ ぢや、わたしを助けて下さる？ わたしや曾ぞ不埒をした覚えなん  
 かありません。 キャッシオーさんを眞眞にしたのは、神さまがお許  
 しなされますやうな世間一般の人情からしたのです。 物なんか呈  
 げたことは決してありません。

オセロ うんにや、奴がああハンケチを持ッとするのを慥かに見た。 おのれ、  
 偽誓しをるか！ 俺の此心が石になるわ。 正義への犠牲にと思  
 てゐたのに、斯うなりや、虐殺する氣にもなるわい。 ああハンケチ  
 を慥かに見た。

デスデ ぢや、拾ったんでせう、わたしは遣りやしません。 呼びにやって眞  
 實の事を言はせて下さい。

オセロ もう言うてしまつたんぢや。

デスデ えッ、何て言ひましたの？

オセロ 汝を物にしたと。

デスデ え、物にッて？ どういふ風に？ 不義密通？

オセロ うん。

デスデ そ、そんな事を言ふ筈はありません。

オセロ 奴の口はもう塞がッちまうた。 誠實なイアアゴが處分をした。

デスデ おゝ、ぢや、あの、もう亡くなつたんですか？

オセロ 奴の頭髪が一本々々に性命を有ッたらうと、俺の此復讐心は慥らん  
 と思ふくらゐぢや。

デスデ まア、情けない！ あの仁は冤の罪で殺されたんです。 それで以て  
 此身までも破滅となつた。

オセロ うぬ、淫婦めが！ 俺の目の前で彼奴の爲に泣きをるのか、うぬ？

デスデ おゝ、わたしをば追ひ出して下さい、殺さないで！

オセロ えッ、下にゐをれ、淫婦め！

おきおが 起き上らうとするデズデモーナを手荒く床上へおさへ附ける。

デズデ 明朝まで待つて下さい。せめて今夜だけ生しといて下さい！

もが と揉くのをおさへ附けて。

オセロ うぬ、抵抗ひをるなら……

デズデ せめて、もう半時間！

オセロ かうなつた以上、猶豫はせん。

デズデ でも一言お祈禱をするうち！

オセロ もう遅い。

しきふ 敷布をかぶせてデズデモーナを壓殺す。 ざんじ 暫時沈黙。 おく と奥で

と 扉を叩く音。

イミリ (奥で) 殿さま〜！ もしく〜！ 殿さま〜！

オセロ ヤッ、あの物音は？ ……まだ死なん？ まだ死にきツちやをらん

か？ 酷いことはしても慈悲心はある、長う苦しませておきたうな

い。……かう、かう。

ふる (古いテキストに、こゝでオセロが短剣でデズデモーナを刺すといふトガキの書き添へられたのがあって、それが俳優が演ずる際の一つの型となり、最近まで傳はつてゐる。或ひは、単に窒息の爲に死んだものとする、後に暫時でも息を吹き返して物を言ふのが不自然に思はれるから、いつとなくさういふ型が始められたのかも知れない。)

イミリ (奥で) もしく〜！ もしく〜！ 殿さま〜！

オセロ (ぎょつとして) ありや、イミリーリヤぢや。……(奥にむかへて) 今すぐ。

……(床を見て) 死んじまうた。……キャッショーの死んだことを知

らせに來をつたんぢやらう。……つい、今音がしたが。……やッ！  
 もう動かん？ 墓のやうに、寂かになった。……呼び入れようか？  
 可いか知らん？ ……やッ、また動いたやうぢや。……いゝや。：  
 ……どうしたらえいかな？ ……入つて來たら妻に物を言ひをるぢや  
 らう。妻に！ あゝ、妻！ だれの妻ぢや！ ……俺にはもう妻は  
 ないんぢや。……おゝ、堪らんわい！ おゝ、つらや、つらや！  
 今こそどえらい月蝕や日蝕が始り、さうして其天變で、此地球が驚  
 いて、大きな口を開きをるでもあらう。(大地震が起るかも知れん。)  
 (奥で) 申し上げたいことがあるんです。もしく、殿さまく！  
 伊三 つい忘れとつた。さ、さ、入れく。……一寸待つてくれ、今直  
 ぐに開ける。……帳を引いておかう。……  
 と床の帳を引いてデズデモーナの死骸を隠し、やがて扉口の

伊三

（奥で）申し上げたいことがあるんです。もしく、殿さまく！  
 伊三 つい忘れとつた。さ、さ、入れく。……一寸待つてくれ、今直  
 ぐに開ける。……帳を引いておかう。……

と床の帳を引いてデズデモーナの死骸を隠し、やがて扉口の

錠を外し、戸を開く。

何處にをる？ 用とは何ぢや？

伊三 伊三リーヤ狼狼の態で走り入る。

伊三

おゝ、お殿さま、あつちで非道な人殺しがございました！

オセロ

え、今？

伊三

つい今でございますの。

オセロ

そりや月の位置が狂うて、例よりも下界に近づいとるから、それで  
 人間が亂心するんぢや。

伊三

キャッショーさんがロダリーゴーといふ年の若いエニスの人をお殺  
 しなすつたんです。

オセロ

なに、ロダリーゴーが殺された！ キャッショーも殺されたか？

伊三

いゝえく、キャッショーさんは殺されなさりやしません。



オセロ なに、キャッショーは殺されん！……ぢや、調子ッ外れだ。(手筈が狂った。) 甘いと感じたのが(復讐の味が)苦しくなるわい。(心地よいと思つてゐるのに、あゝ、無念な！)

此途端に、デズデモーナが息を吹き返して、息もたえどくな  
がら

デズデ あゝ、何の覚えもないのに！ 覚えもないのに！

イミリ あれ、何です、あの泣き聲は？

オセロ え、あの、とは！ 何が？

イミリ あゝ、まア！ ありや慥かに奥さまのお聲でした。……

寢床へかけよつて、帳を開いて見て

あれい！ だれか来て下さい！ だれか来て下さいよう！ おゝ、奥さま、もう一度お口をおき、下さいまし！ デズデモーナさま！

デズデ おゝ、もし、何とかおつしやいまし！

イミリ 何の科もなくツて死ぬんです、わたし。

デズデ おゝ、ま、だれが此様な目にお逢はせしたんです？

イミリ だアレもしないの、わたしがわるいのよ。さよなら。殿さんへよろしく言ツとくれ。おゝ、さよなら！

とデズデモーナ死ぬ。

オセロ どうして殺されたんぢやらうな？

イミリ あゝ、それが誰れに解りませう？

オセロ 俺がしたんでは無いと自分で言うたらう？

イミリ はい、さうおつしやいました。此通りを知らせて來にやならない。

オセロ 女めは虚言を吐きをつたから、焦熱地獄へ落ちをるぢやらう。殺したのは俺ぢや。

イミリ おゝ、ぢや、奥さまは尙ほと天人です、あんたは尙ほと悪魔です！

オセロ 不埒を働きをつた淫婦なんぢや。

イミリ いゝ加減なことをおいひなさい、あんたは悪魔です。

オセロ 彼奴は水性の浮気女ぢや。

イミリ さういふお前さんは火の性だ、粗暴な人です、奥さまを不義者だなんて！

オセロ おゝ、あの、天人のやうな、貞實なお方を！

イミリ キヤッショーめと姦通しをつた。きさまの亭主に聞け。おゝ、地獄

のどん底へまでも墮ちようわい、若し正當な理由が無うて、俺が如

是事をしたんならば。くはしい事は亭主に聞け。何もかも善う知

つとる。

イミリ うちの人に！

オセロ 汝の亭主にぢや。

イミリ 奥さまが不義をなすつたつて？

オセロ うん、キヤッショーめと。萬一にも姦通なんかしてをらなんだのな

ら、たとひ無瑕の黄金石で以て天が別の世界を造つて、彼女と取換

へっこにしようとせられても、賣り渡すこっちゃアないんぢや。

イミリ (呆れて) うちの人がッ！

オセロ うん、眞先に知らせたのは彼れぢや。誠實な男ぢやから、不義非道

を汚いゝ、蛆蟲の滑液ほどにも憎むんぢや。

イミリ うちの人が！

オセロ くだいわい！ 先刻から汝の亭主がというとるのに。

イミリ おゝ、ま、奥さん、悪計が眞實な心をいゝ嘲齋坊にしたんですよ！

オセロ ……うちの人が奥さまが不義をなすつたと。

イミリ うん、汝の亭主がぢや。解つたか？ 俺に忠實な、汝の亭主がぢや、

イミリ

あの誠まことなイアールイーゴーがぢや。  
若もしそんなことをいつたのが本ほん當たうなら、あの人ひとの極ごく悪あくな魂たましひは日に  
一分ぶづつ一厘りんづつ腐くさッちまふがいゝ！ ままツかな大おほ謙うそ吐つき！ どうし  
て、奥おくさまは寧いつろ惚ほれ過すぎてゐなすつたんだ、此この汚きたない、見みツともな  
い男をとこに。

オセロ

えッ！

イミリ

やい、思おもふ存ぞん分ぶん悪わるい事ことをしやアがれ。ほんほんとに物もつ體たい至し極ごくもない事ことを  
しやアがった、罰ばち當あたりが、こんな(結構な)奥おくさんを有もつてゐたのも  
物もつ體たいないことだつたが。

オセロ

だまれ！ 黙だまらんと爲ためにならんど。  
と劍けんを抜ぬく。

イミリ

わたしを如何どうする力ちからなんかあるもんか、お前まへに？ やれ、馬ば鹿かッ！

土つちくれ同どう然ぜんの唐たう變へん木ぼく！ とんだ事ことをしやアがった……そんな劍けんなん  
か怖こはいものか！ 此この事ことを觸ふれ散ちらして來こよう、二十じゅうたび殺ころされたつ  
てかまふものかね。……だれか來きて下ください！ あれいゝゝ！ だ  
れか來きて下ください！ 來きて下ください！ ムムアめが奥おくさまを殺ころしたんで  
す！ 人ひと殺ころしです！ 人ひと殺ころしです！

と扉と口いへ駈かけていって、大おほきな聲こゑでわめく。其その間あひだ、オセロ  
はそれを制せいしようともせず、デズデモンの寢ね床どに突つ伏ぶし  
て唸うめいてゐる。

とモンターノー、グラシャーノー、イアールイーゴーらが大おほあわて  
で奥おくから出でる。

モンタ

何なに事ことが起おこつたのです？ (オセローに) 將しやう軍ぐん、どうなすつたのです！

イミリ

おゝ、イアールイーゴーどの、來きなすつたの？ あんたはほんほんとにいゝ氣き

なもんですよ、他のした人殺しの罪を脊負はされて平氣でゐなさるとは。

グラシ どうしたのです？

イミリ (イアーゴに) あんた、男なら、此奴に、そりや虚言ぢやと言って下さい。此奴はあんたが此奴に奥さんが不義をしてゐなさると言ひつけたと言ふんだよ。そんな事はあらう筈はない、あんたはそんな悪黨ぢやありやしない。さ、言つて下さい、わたしや胸が一ぱになつてゐる。

イアゴ さうだと思つたから言つたんだ、御自分でも成程、さうもあらうと、

お思ひなすつたことを言つたまでだ。

イミリ でも、まさか、奥さまが不義をしてゐなさんてことはお言ひぢやあるまい？

イアゴ 言つた。

イミリ ま、酷い、とんでもない虚言を！ ほんとに、まア、虚言も虚言、非道な虚言を。キャッショーさんと密通なすつたなんて！……相手はキャッショーさんだと言つたの、あんた？

イアゴ うん、さういつた。さ、もう黙つとれ。

イミリ いゝえ、黙らない、言はずにやアゐられないよ。奥さまは此床中に殺されておいでなさる……

皆々 おゝ、とんだこと！

イミリ あんたの言つた事が原で、殺されなすつたんだよ！

オセロ いや、諸君、御不審なさるにや及ばん。其通りです、實際。

グラシ いや、どうも、奇怪千萬な事！

モンタ おゝ、何ともはや、驚き入つた御所行！

イミリ

わるだくみです、わるだくみです、わるだくみです！……あゝ、思ひ當ることがある。おゝ、きつと、こりやわるだくみだ！……さうかとも思つたツけが。……斯う悲しくツちや、わたし死んじまふかも知れない。……おゝ、わるだくみだ、わるだくみだ！

イアゴ

えい、氣でもちがったのか？ さ、家へ歸れ。

イミリ

皆さま、どうぞ物を言はせて下さいまし。夫に従ふのが當然ですけれども、今は聞きません。……イアゴーどの、わたしやもう宅へは歸るまいよ。

此うちに、オセローは、又更に苦悶の思入れで寢床の上に突伏して泣き唸く。

オセロ

おゝ！ おゝ！ おゝ！

イミリ

さうよ、さう突つ伏して唸きやアがるがいゝ、おのしは此世の中に生

オセロ

きてゐた一等可愛らしい、何の罪も無いお人を殺しやアがつたんだ。  
(起ち上つて) いや、彼女は姦通をしをつたんぢや！……(グラシヤーノ  
ーに) 叔父さん、つい、あんたとは氣が附かんぢやつた。姪御はあ  
そこに臥とりまする、其息の根を、つい、先刻、止めましたのは、  
此手です、全く。怖ろしい残酷な行爲とも見えるであります。

グラシ

あゝ、惘然さうなデズデモーナ！ 父御が先きへ亡くなつたのはま  
だしもであつた。お前の結婚で、父御は憤激せられ、其爲に老の玉  
の緒が眞二つに切れる原ともなつたぞよ。若し存へてをられて、此  
有様を見られたなら、心が亂れ、自暴自棄となつて、果は善心を呪  
ひ退け、如何な墮地獄罪を犯されまいものでもなかつた。

オセロ

かはいさうなことでありますが、女めがキャツシオーと千度も不し  
だらを働きたつたことは、イアゴーがよく存じとります。キャツ

シオーが自白したのであります。女めは手前が愛の最初の記念にとて遣はした品を姦夫に與へて情けに酬いをつたです。現に、男がそれを持ツとるのを見届けました。ハンケチです、父が、其昔、おふくろに贈つたものです。

イミリ (いよく夫がした事だと覺つて) おゝ、神さま！ おゝ、どうしたらよからう！

イアゴ こら、しづかにしな。

イミリ いゝえ、言ひます！ 言ひますよ！ しづかにしろって！ いゝえ、黙つちやゐない、北ツ風のやうに自由勝手に言ッちまふのよ。いゝえ、天が、人間が、悪魔が、何が來て叱つたつて、罵つたつて言はないでおくものかね。

イアゴ 馬鹿を言はないで、早く歸れ。

イミリ いゝえ、歸らない。

これにてイアゴは劍を抜いて、いきなり、イミリヤを刺さうとする。グラシヤーノーが目早く見附けて遮る。

グラシ 何をする！ 女を劍で？

イミリ おゝ、おのれ、ムーアの大馬鹿野郎め！ おのしが今言つたハンケチてイのは、わたしが或時……頼まれてゐたから……拾つて我夫にやつたのよ、あんな物を、なぜあんなに熱心になつて盗んでくれと頼むのか、と不審に思つちやゐたけれど。

イアゴ うぬ、悪黨女め！

イミリ あのハンケチをキャッシオーさんにお遣りになつたつて！ いゝえ、いえ、とんでもないことを！ わたしが拾つて我夫に遣つたんだよ。

イアゴ 畜生ッ、虚言を吐け！

イミリ

いゝえ、決して虚言ぢやない。皆さま、決して虚言ぢやアございません。……(オセローに) おゝ、人殺しの大馬鹿者め！ 如是大馬鹿者に、ほんとにく、物體ない、あんな結構な奥さまをば！

オセロ

(イアーゴを睨んで) 天に石は無いのか、雷の石の外にや？ うぬ、極重悪人！

と堪へかねて抜劍してイアーゴに走りかゝらうとする。

それをモンターノがさゝへて、劍をもぎ取る。此途端に

イアーゴは背後からイミリーヤを一刺し刺し、そのまゝ、逃げて入る。

グラシ

ヤツ、女が倒れる。彼奴めが妻女を殺しをつたに相違ない。

イミリ

さうですく。……おゝ、わたしを奥さんの側に臥かして下さい。妻を殺しておいて逃げてゆきをつた。

グラシ

モンタ

おッそろしい悪黨だ。……これを、此劍をお取り下さい、今ムーアの手から奪ひとつたんです。あなたは外で戸口をばお守り下さい。ムーアを外へ出す位なら殺したはうがよろしいでせう。手前は彼奴を追ひ掛けませう、あの悪黨めを。

モンターノとグラシヤーノとは戸外へ入る。

オセロ

勇氣までも失うてしまふたか、どんな青二才でも、此手から劍を取りをる。あゝ、併し、人間の資格が廢つた身ぢや、武人の名も廢る筈ぢや！ かまうことアない。

イミリ

(息もたえくながら) 奥さま、あの唄が前知らせになりましたのねえ！ ねえ、もし、わたしの聲が聞えますの？ 白鳥の眞似をしてわたしや唄を唱ひながら死にますのよ。(歌) 柳や、柳や、柳……ムーアどの、奥さまは貞女でいらしたのに、酷いムーアどの、お

前さんに惚れきつてござらっしゃったのに。……どうぞ天へ昇られま  
すやう、本當の事を申してゐるのですから。思つてゐる通りを言つて、  
死ぬんぢや、死ぬんぢや……

といひくゝイミリーヤ息絶える。

オセロ

此閨房にはもう一本劍がある、スペインの氷河で鍛うた劍が。……  
(と帳内を捜して) おゝ、こゝにある。……(戸外にむかつて) 叔父さ  
ん、外へ出して下さい。

グラシ

(戸外で) 強ひて出ようとすると、一命にかゝはりますぞ。武器を  
持つてござらんから自由がきゝますまいぞ。

オセロ

ぢや、先づこれを御覽なされた上で御返答をなさい。でないと赤手  
ぢやけれど随分お相手になりますぞ。

これにてグラシヤーノーが出る。

グラシ

どうしたのです？

オセロ

御覽なさい、武器は持ッとりますぞ。これ以上の武人の腰に帯ばれ  
たことはありません。手前は此瘦腕と此劍とで、貴君一人どころ  
か、其數十倍の障害をも見事切り開いて罷り通つたこともあつたで  
すぞ……が、おゝ、無益な高言！ 運命に克つことは出来ん……  
：もう駄目ぢや、もう。……御心配なさるな、武器を持ッとらうと。  
これがわしの一生の旅の果ぢや、わしの最後の船著ぢや。……驚い  
て退却をなさるか？ そりや無用な御心配ぢや。わしの胸へ、つい  
蘭草を一本でもお向けなさりや、オセロは退却します。……あゝ、  
何處へ行かう、此オセロは？ ……(跪いてデズデモーナの屍に接近  
して) どんな顔をしてゐる？ おゝ、不仕合せな奴！ 襦衣のやう  
に蒼白うなツとる！ 大審判の日に一しよになつたなら、其顔の色が



俺の魂たましひを天上てんじやうから奈落ならくへまで抛なげ下おとして、鬼共おにどもにそれを掴つかませるでもあらう。おゝ、冷つめたい。冷つめたくなッとする！ おのしの貞操ていさうのやうにならう。……おゝ、極重悪人ごくちゆうあくにん！……おゝ、夜叉やしやよ、悪魔あくまよ、俺おれに此天人このてんにんの姿すがたを拜をがませんやうに咎むちで以もつて追お拂ほらつてくれ！ 業風ごふふうで俺おれを吹ふき廻まはしてくれ、硫黄いわうの火ひで炙あぶつてくれ、火ひの海うみへ浸ひたしてくれ！ おゝ、デズデモーナ！ デズデモーナ！ もう死しんでしま  
うた！ おゝ！ おゝ！ おゝ！

此時このとき、ロドギーコーとモニターノーが、椅子いす輿ごしで擔かかれてあるキヤッシオーと共にとも出る。つゞいて役人共やくにんどもがイアーゴを召捕めしとつて引ひつ立てつゝ、出でる。

ロドギ 不仕合せふしあはな粗忽人そこつじんは何處どこに居をられますな？  
オセロ そりや、オセローというてゐた男をとこぢや。こゝにゐます。

ロドギ 毒蛇どくじやめは何處どこに居をます？ こゝへ引出ひきだしなさい。  
オセロ (イアーゴの足を見詰めて) 足元あしもとを見とるが、小説つくりごとと見える。(傳説のやうに、足の指先さきが二股ふたまたまになつちやアゐない。) うぬが果はたして悪魔あくまなら、殺ころすことは出来できん筈はずぢや。

と唐突だしぬけに走りよつてイアーゴを刺さす。皆々みなくおどろ驚おどろいて引分ひきわける。

ロドギ 劍けんを挽もぎ取とつておしまひなさい。  
イアゴ 手傷てきずア負おつたが、急所きふしよぢやアない。

オセロ それを残念ざんねんぢやとは思おもはんわい。うぬ、わざと生いかしときたい、俺おれは死しぬはうが幸福しあはせぢやと思おもうとるから。

ロドギ 以前いぜんは善人いひひとでおあんなすつた貴君あなたなんだが、こんな悪計わるだくみに罹かられた只今ただいまとなつては、おゝ、オセローどの、何なんと申まうしてよろしいやら？

オセロ 何なんとなりと。正義せいぎの爲ために殺人ひとごころしをしたんぢやとさへ傳つたへて下くださりや満まん

足です、私怨の爲ではない、正義の爲にしたのであります。

（イアーゴを指して）此奴略其悪計を白状いたしました。あんたは、此奴と相談の上で、キャッシオーを殺さうとなすつたのですか？

オセロ

さやう。

キャシ

將軍、お憎しみを受ける覚えなんかありません。

オセロ

今はさう思ふ、すまなかつた。……（ロドーギーゴに）其人鬼めに訊うて見て下さい、どういふわけで予を靈肉共に陥れようとしをつたかを。

イアゴ

問ふのは無用だ。知るだけの事は知つてゐなさるんだ。もうこれからは物は言はない。

ロドギ

なに、もう祈禱もせないのか？

グラシ

今に拷問して言はせて見せよう。

オセロ

（イアーゴに）はて、何もいはんのが身の爲ぢやらうて。

ロドギ

（オセロに）まだ御存じぢやありますまいから。先刻からの始末を、

お話しませう。……（と書面を出して）これは殺されたロダリーゴの衣囊にあつた書状です、それからこゝに、もう一通。これにはロダリーゴの手でキャッシオーどのを暗殺する手筈が認めてあります。

オセロ

おゝ、悪黨！

キャシ

おゝ無慚とも非道とも！

ロドギ

また別に不平たらぐの書面が一通、これもロダリーゴの衣囊から出たのです。多分、あの極重悪人へ遣はす爲に書いておいたものらしいのですが、まだ遣はさんうちにイアーゴが逢つて、始末が附いたものと見えます。

オセロ

おゝ、非道な奴！……キャッシオー、どうして君はあのハンケチ

を手に入れたんぢや？

キャシ

自分の部屋で拾ったのです。つい今、奴が白状した所によりまして、おのが望みを遂げる手段に故意と落しておいたといふ事です。

オセロ

おゝ、馬鹿であつた俺は！ 馬鹿であつた！ 馬鹿であつた！

キャシ

尚ほ此ロダリーゴアの書面中にイアアゴアを非難した文言があります、それに據りますと、夜警の晩にロダリーゴアが手前へ喧嘩を吹き掛けたのは、あのイアアゴアの教唆なのです。その爲に手前は御勘氣を蒙つたのでした。先刻死んだと思つてゐたロダリーゴアが息を吹き返して、イアアゴアが彼れを害した事、教唆した事等を申し立てましたのです。

ロドギ

(オセローに) 此上は此室を立出でて、吾々と御同行なさらねばなりませんぞ。あんたの職權はお取上げになるのです、さうしてキャッ

オセロ

シオーどのが代つて此サイプラスを治められることになるのですから。……(イアアゴアを見返つて) 此奴めは、何か長く苦痛をさせる好い工夫がありや、さういふ嚴刑に處することにしませう。……あなたは囚人として獄にお下りにならんけりやならん、罪科の性質をゼニスゼニスの政廳へ申達しますまでは。……さ、罪人を引ッ立てい。いや、しばらく。其前に少々申したいことがあります。手前が國家に對して幾らか功勞のあつた事は、當局に於て御承知の筈です。……いや、それはもう申すまい。……只だ御書面で手前の不仕合せの一條を本國へお申し送りの際、願はくは、聊かもお庇ひ下さることなく、又、聊かも誣告せられるやうなこともなく、どうか、有のままにお傳へ下されたい、思慮分別は足りませなんだが、十分に其妻を愛してゐた男であり、決して容易に人を疑はん男ではあつたが、

欺られて心が亂れ、無知の印度人の如くに、其全族にも易へがたい眞珠を我が手で抛げ捨てましたと、又、曾て泣いたことのなかった眼から、意氣地なく、アラビヤに生える護謨の木のやうにぼたく液を垂しましたとお傳へ下さい。さてさうお書きになったら、更に又、斯ういふことをお書き添へ下さい。其以前、アレツポーにをりましたところ、頭帕を被つとるトルコ人めが、無禮にも、エニス人を打擲して我が國を誹謗いたした際、手前は其外道めの喉元を引ッ擱んで、恰ど如是風に……

と隠して持つてゐた短劍で唐突に我が胸を刺して

突き殺しましたとお書き添へ下さい。

ロドギ

お、無慚至極な段落！

グラシ

お打合はせしておいたこともすっかり無効となつてしまひました。

オセロ

(デズデモーナの屍に向つて) 卿を殺す前に接吻をした。かうして(といひく屍の上へ伏し重なりながら) 自殺して、接吻しつゝ、死ぬより外に爲方がない。

といひく息絶える。

キャシ

勇敢な人ですから、或ひはこんなことがありやしないかと思つてゐたんですが、武器を持つてをられようとも思ひがけませんでした。

ロドギ

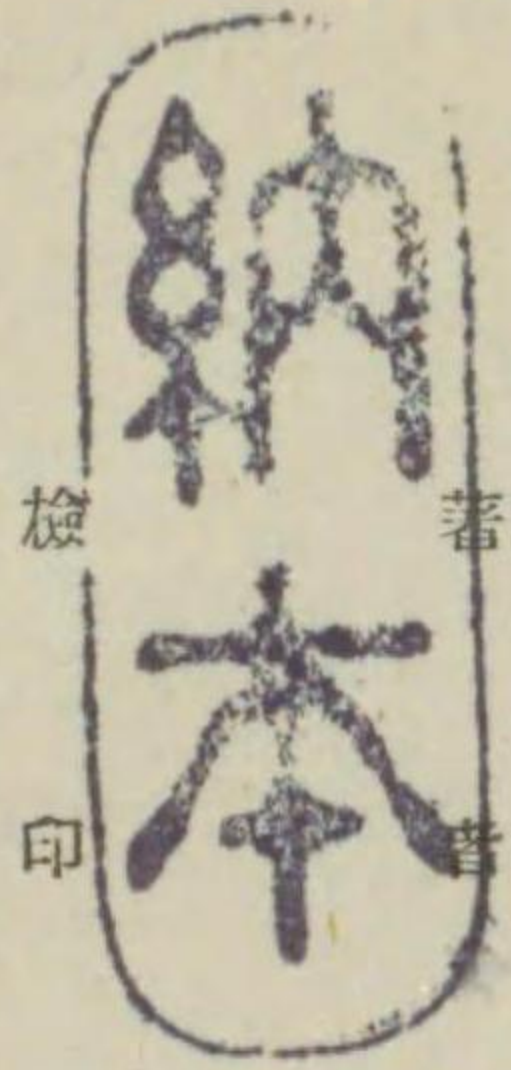
(イアゴーに) やい、スパルタ犬め、苦痛や飢や荒海なんかよりも怖ろしい悪黨め！ 此床の上の無慚な積荷を見ろ。悉皆汝の爲たことだ。あゝ、目もあてられない。掩ひ隠しておきませう。(と帳を引きつゝ)……グラシヤーノーさん、あなたは此家にお留り下すつて家財一切を御押収なさい、あなたが相續なさるべきですから。……(キャッシオーに) 總督、此悪漢の審判はあなたに、お託し爲ま

す、時<sup>とき</sup>も、場所<sup>ばしょ</sup>も、拷問<sup>がうもん</sup>の爲<sup>ため</sup>方<sup>かた</sup>も。お、必<sup>かなら</sup>ず御<sup>ご</sup>厲<sup>れい</sup>行<sup>かう</sup>下<sup>くだ</sup>さい！  
 手<sup>て</sup>前<sup>まへ</sup>は直<sup>す</sup>ぐさま船<sup>ふね</sup>に乘<sup>の</sup>り込<sup>こ</sup>み、此<sup>この</sup>慘<sup>さん</sup>事<sup>じ</sup>の顛<sup>てん</sup>末<sup>まつ</sup>を本<sup>ほん</sup>國<sup>こく</sup>の當<sup>たう</sup>局<sup>きよく</sup>へ傳<sup>つた</sup>へる  
 こと<sup>こと</sup>にいた<sup>いた</sup>しませう。

皆<sup>みな</sup>々<sup>づ</sup>入<sup>い</sup>る。

オセロー (完)

オセロー 新修シェークスピア全集 第二十八卷



昭和十年四月一日印刷  
 昭和十年四月十五日發行

10. 4. 9

譯者	坪内逍遙
發行者	木田開
印刷者	堀修造
發行所	東京市麴町區丸ノ内二丁目 丸ノ内ビルディング五九二區 中央論社 振替口座東京三四番 電話丸ノ内五三五―五三八番

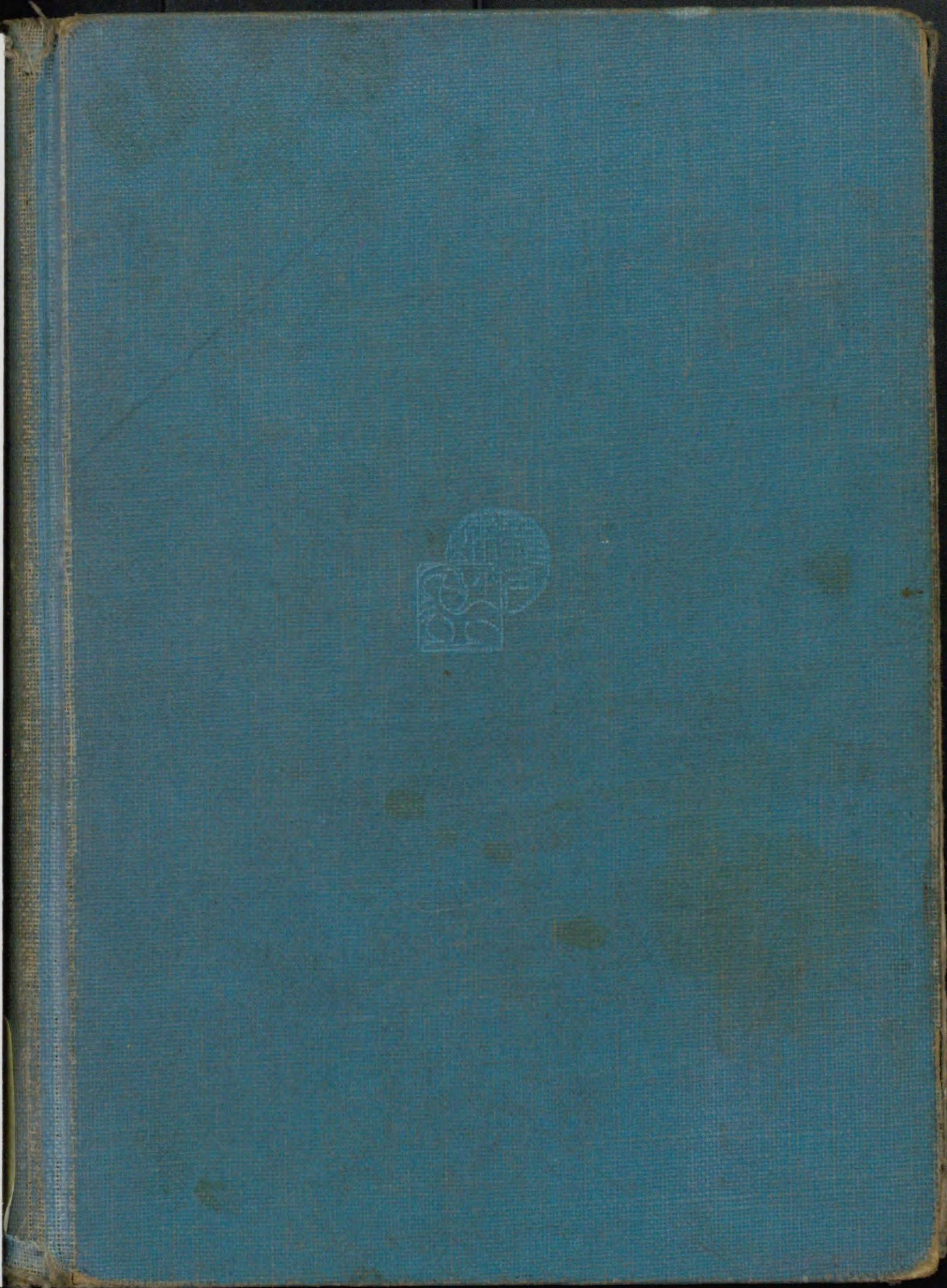
定價七十錢 豫約期間中に限り  
 特價五十錢

大日本印刷株式會社櫻町工場印刷

解本

兩角製本

646  
3



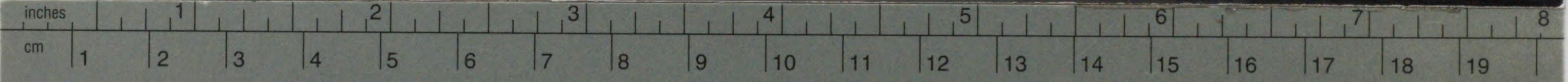


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

